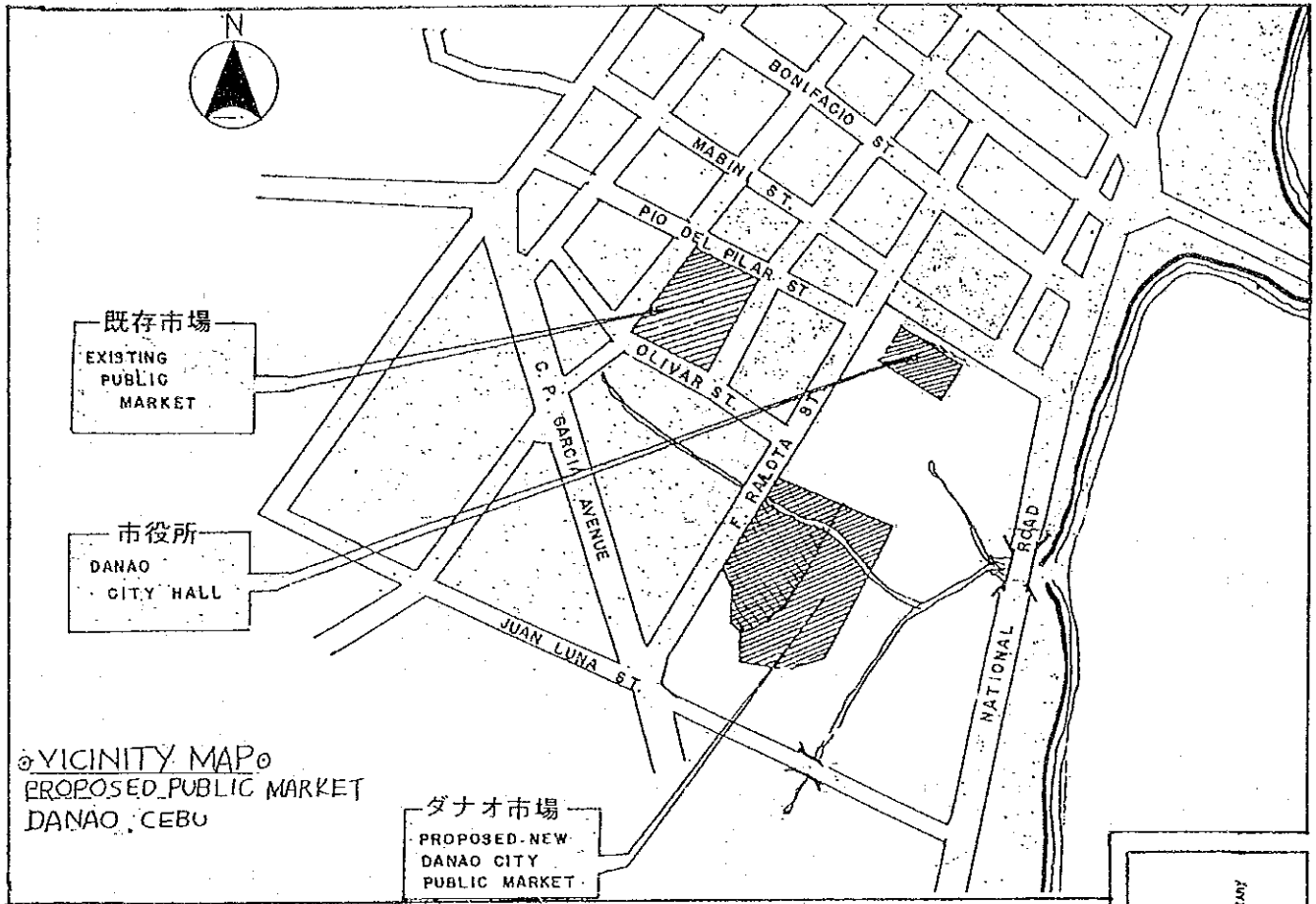


図3-1-7 ダナオ市、新市場敷地位置図(プロポーザル-1)



ダナオ市、新市場敷地測量図(プロポーザル-1)

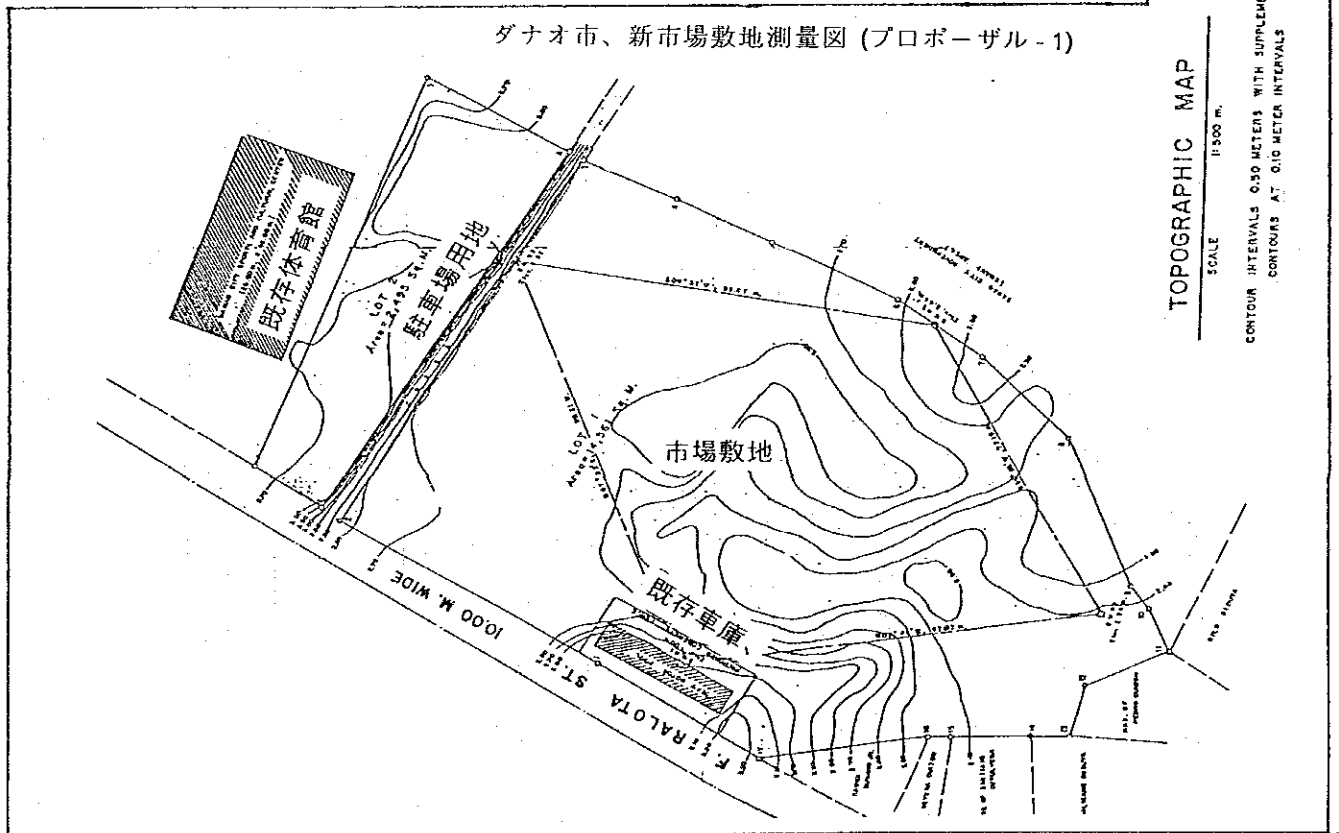


図3-1-8 ダナオ市、新市場敷地、市場配置図、平面図(プロポーザル-1)

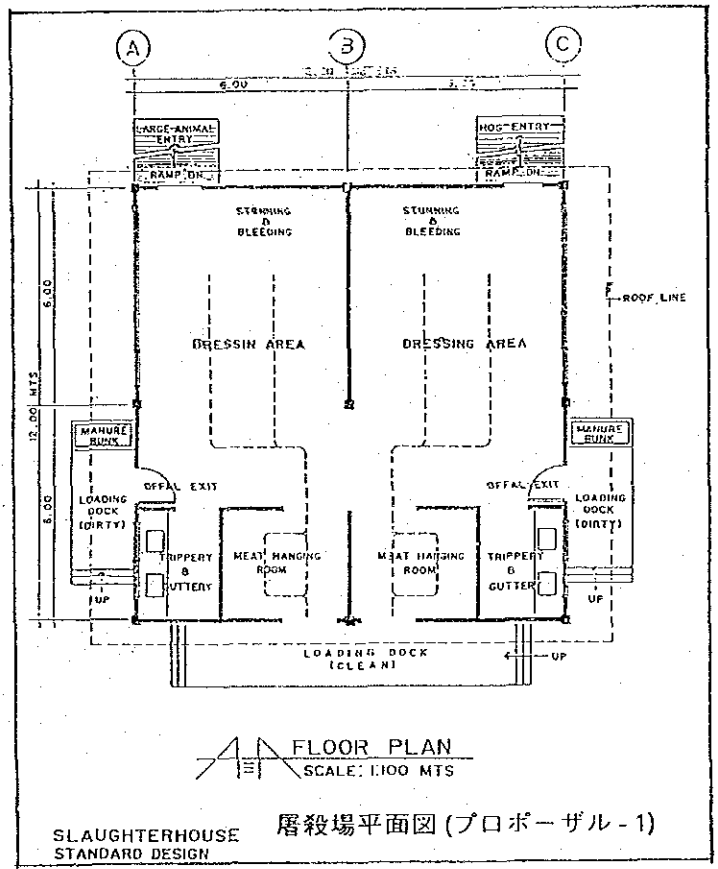
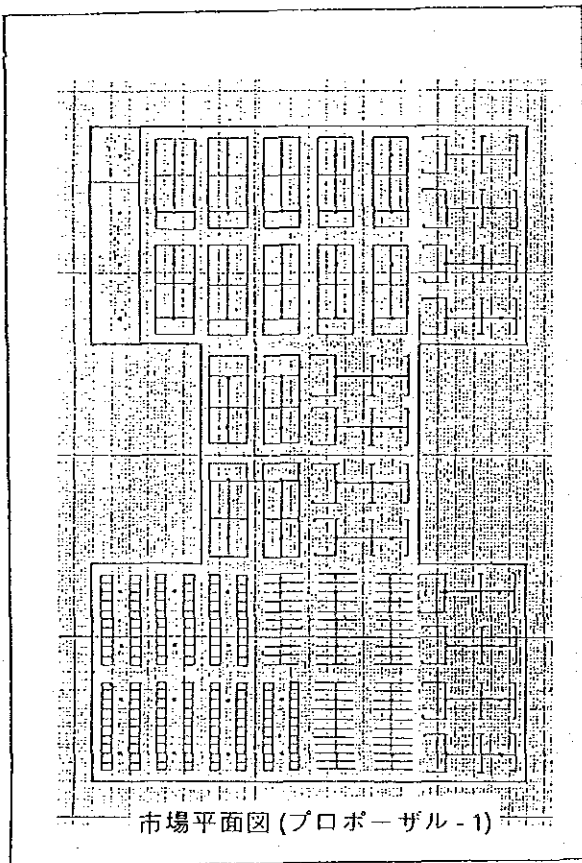
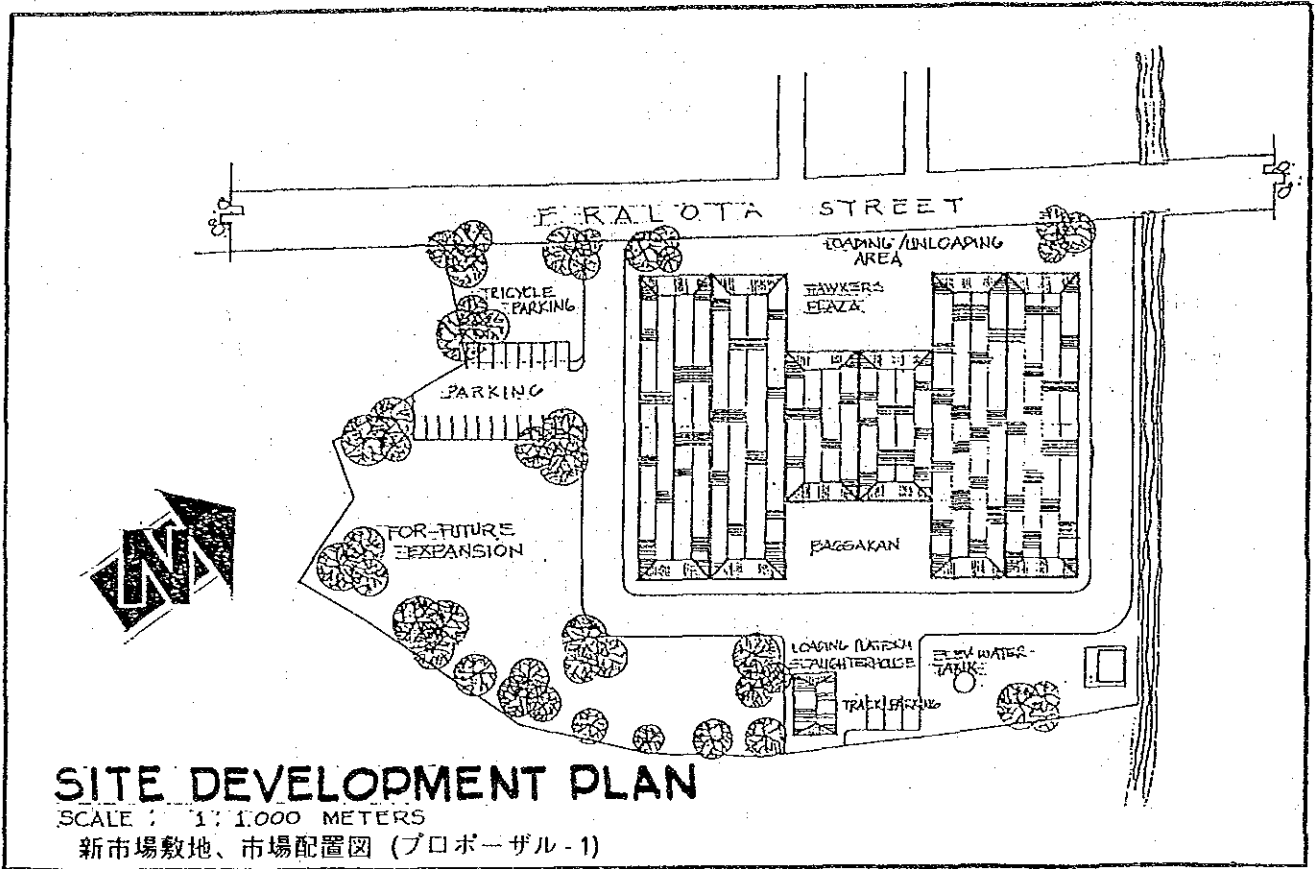


図3-1-9 ダナオ市、新市場付近見取図、敷地図(プロポーザル-2)

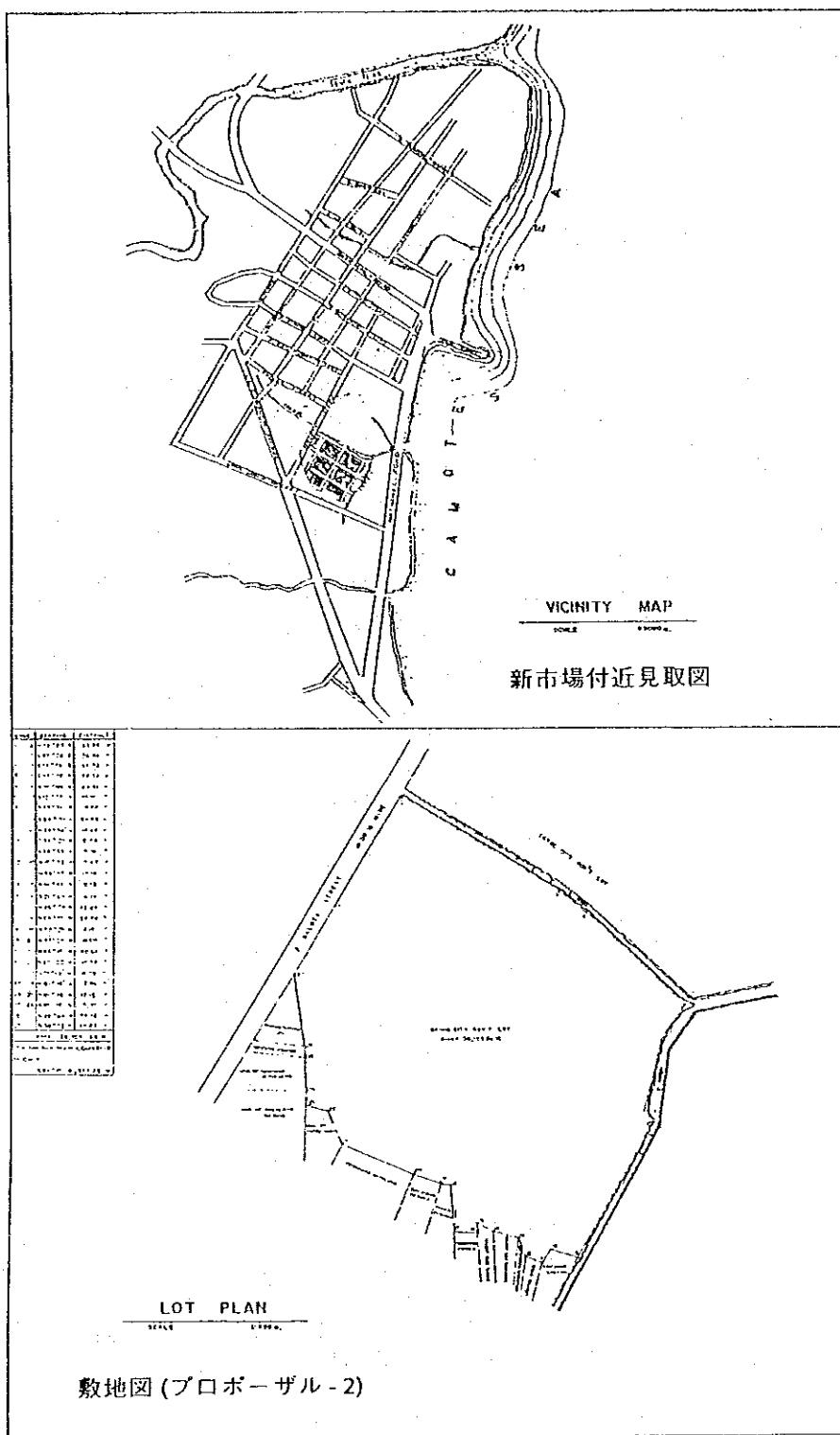
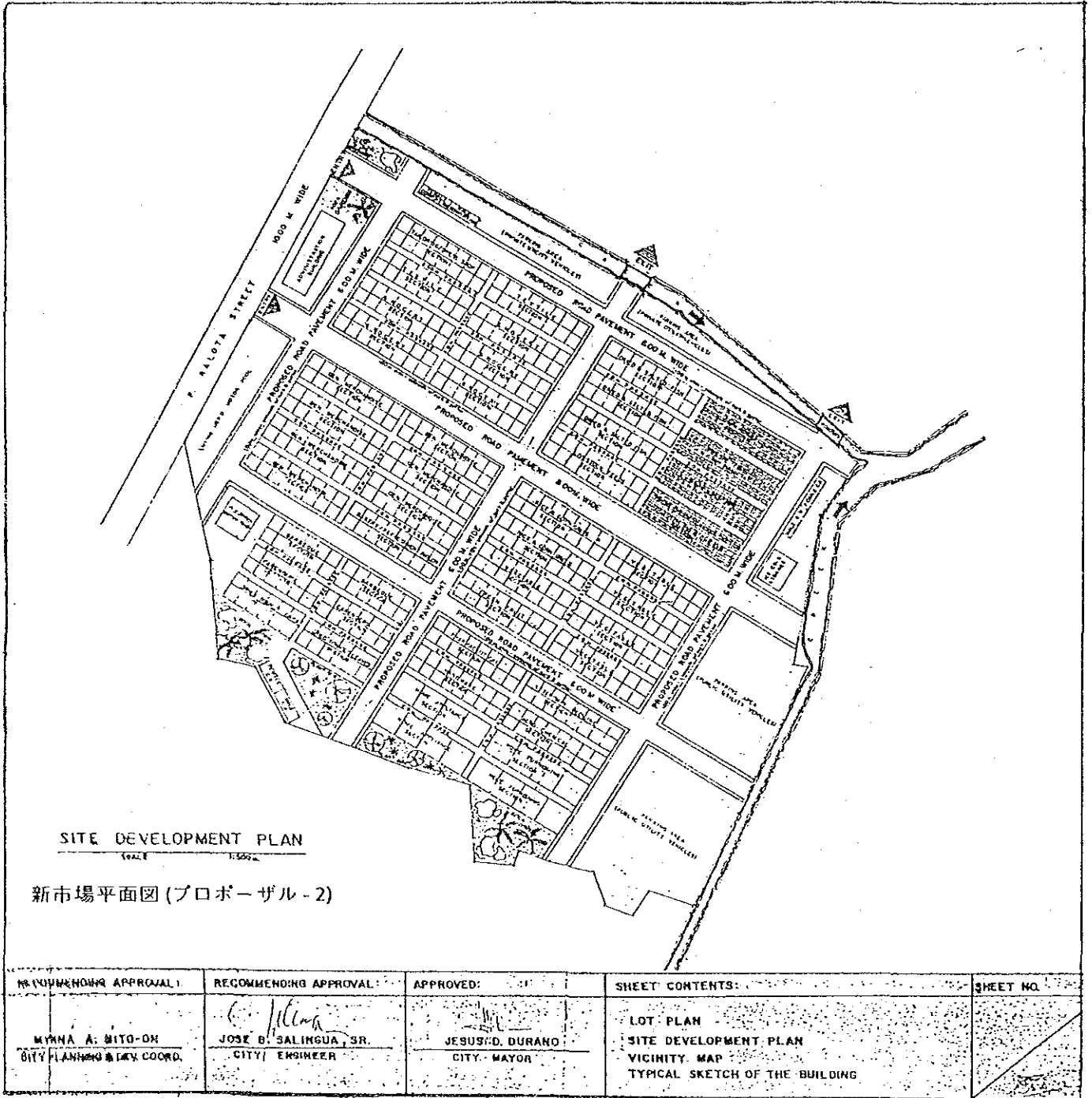
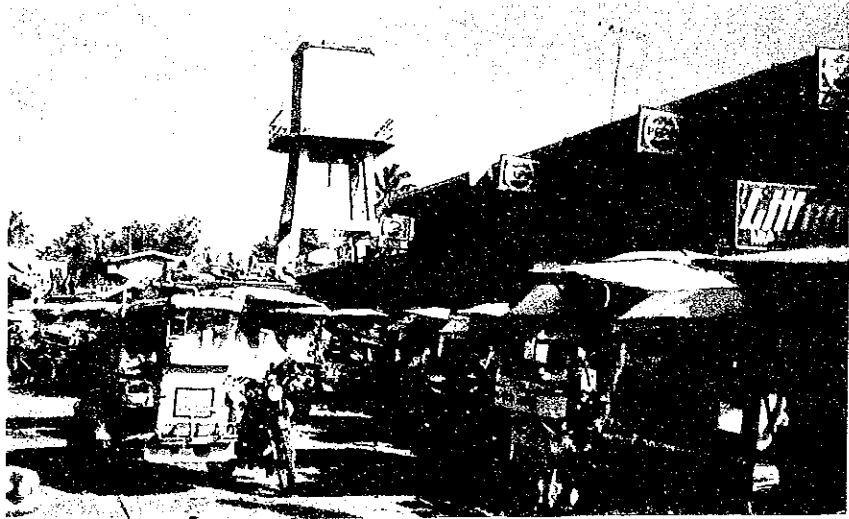


図3-1-10 ダナオ市新市場平面図(プロポーザル-2)



既存市場の現況① ダナオ市場

既存市場の外観、  
前面道路駐車場側



既存市場の前面道路



台風被害状況



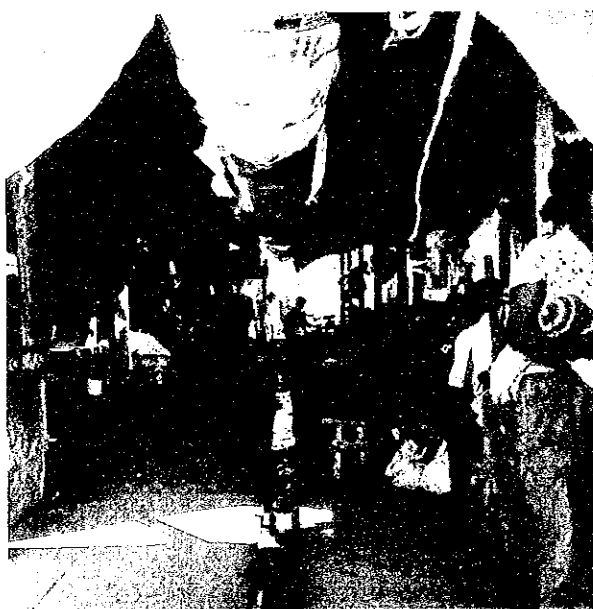
既存市場の内観



既存市場の内観



排水溝





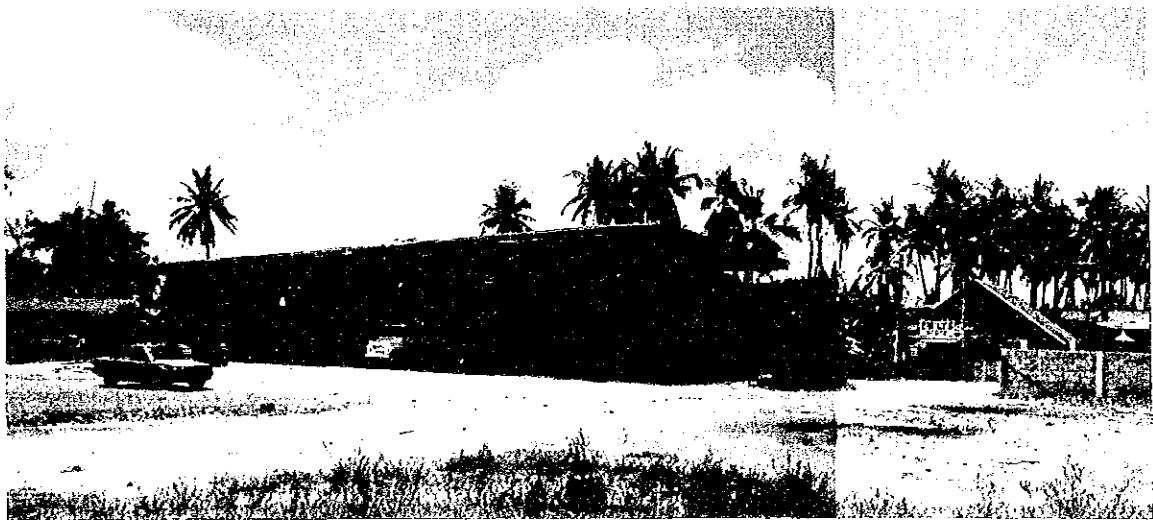


新敷地の現況① ダナオ市場

ダナオ市場新敷地を  
前面道路より見る



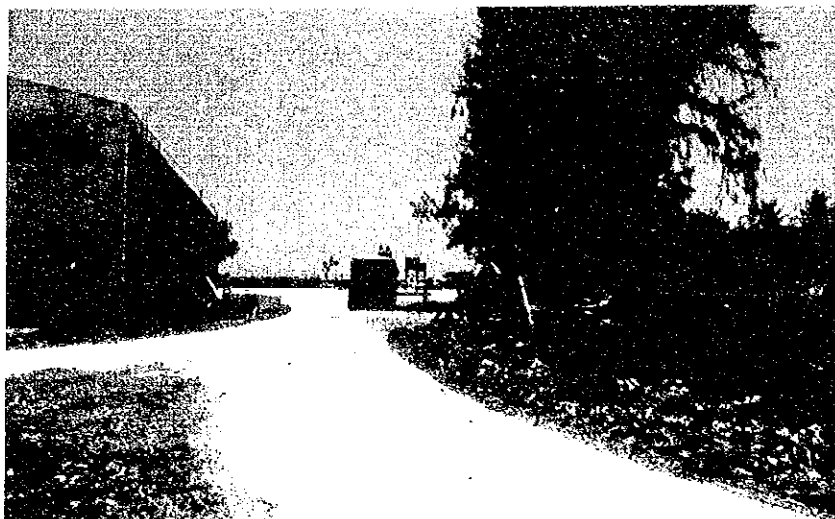
市場新敷地



前面道路に面する重機・車輛車庫

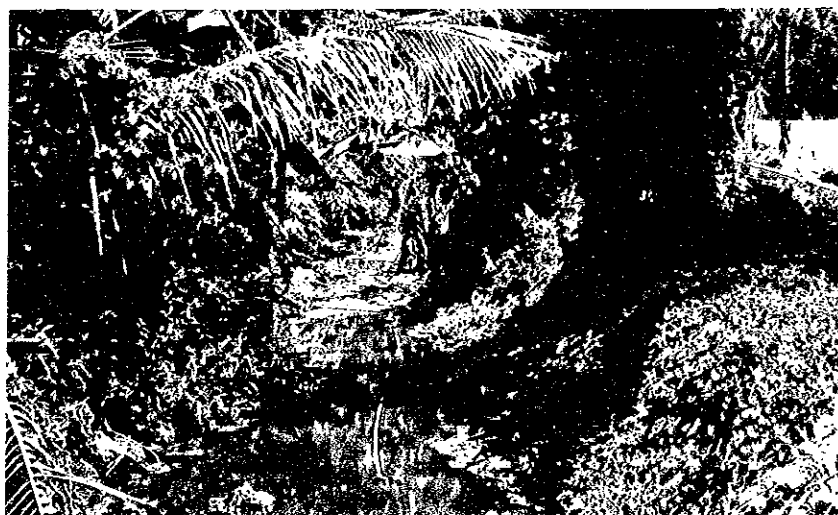


市場駐車場敷地



駐車場敷地より市場新敷地を見る

敷地内の排水溝





#### 4) トレド市 (Toledo City)

トレド市は、セブ本島の西海岸の中央部に位置し、セブ市から50kmの距離にある。人口は、1983年現在123,569人で、人口増加率2.5%である。過去、人口増加率が19.5%を記録したことがあるが、これは、アトラス合同鉱業&開発会社(ACMDC: Atlas Consolidated Mining and Development Corporation)の銅鉱山と炭鉱の拡張のためであった。同市の主な産業は銅鉱山・炭鉱と合わせて肥料化学、ライム・ストーン、および農業と商業である。主な農産物としては、とうもろこし、米、バナナ、ココナッツ、野菜である。当市の経済活動の24.4%は、アトラス合同鉱業&開発会社(ACMDC)により占められている。ACMDCは、主に鉱業(銅鉱山と炭鉱)であるが、その他に肥料化学、家具製造、製材、材木置場なども経営している。また、トレド市は交通の要所として商業と交易が盛んで、隣接するネグロス島との交通、商業および交易のセブ本島における窓口になっている。

トレド市には、現在、2つの主要な公共市場と、3つの小規模なバランガイ市場(店舗20軒程度)と'tabo'と呼ばれる私設市場がある。主要な2つの公共市場は、ポブラシオン(Poblacion)市場とドン・アンドレス・ソリアーノ(Don Andres Soriano)市場である。

ポブラシオン市場は、市街地の中心に位置し、270軒の店舗があり、マーケット・デーには約400の各種露天商が各地より集まってくる。当市場は主に鮮魚、食肉、野菜・果物、および日用品、衣類を扱っている。

ドン・アンドレス・ソリアーノ(DAS)市場は、内陸にあるACMDCの鉱山町の中心に位置し、店舗数86軒である。現在市場建物の修復中であり仮店舗は市場の前面道路の両側で営業している。バランガイ市場は週1回営業している。

#### ● 既存市場の現状

市街地の中心(ポブラシオン市場)と南部の鉱山町(ドン・アンドレス・ソリアーノ市場)の2ヶ所に公共市場がある。

ポブラシオン市場は海岸沿いに展開しており、敷地面積13,000m<sup>2</sup>に市場建物と屠殺場等が配置されている。平日は270の店舗が営業しているが、マーケット・デーには露天商も含めて600の店舗が営業する。台風により屋根や窓に被害を受けたが、市が100万ペソを支出して修復した。市場本棟の状況は清潔で良好であるが、屠殺場は老朽化し、台風被害によって屋根が壊れたままとなっている。また既存

市場前面の岩壁が台風の影響で一部崩れ、市側で修復をしている。市場はスペース拡張の必要に迫られていることから、この屠殺場を移転し、その跡地を中心に魚売場等のウエットセクションの建設および現在は設置されていない冷蔵庫や管理事務所の新設を計画している。屠殺場新設予定地の周辺には居住者がいるが、移転用地として市では2haの用地を準備している。また新設予定地は海に面しており、旧市場同様の護岸を要する。

DAS市場は1969年建設されたが、1990年の台風ルピンによって屋根部分が全損した。現在は修復作業を終え、市場の再開を待っているが、再開後の店舗は魚・肉売場に73店、乾魚、野菜、果物売場に121店および雑貨、衣類、履物等売場が85店である。現在修復中の店舗構成では雑貨、衣類等売場の店舗が不足しており、増設が必要である。このドライ・セクションの店舗は、隣接した屠殺場等の古い施設を移転し、その跡地に増設を図るのが適当である。さらに市側では露店スペースの整備、冷蔵庫の設置等を希望している。

DAS市場の改修工事中、市場内にあった店舗は前面道路に仮設店舗を作り営業しているが、臨時移転の為その経費は改修後の再入店を条件として各店舗が負担している。市側は工事期間中の移転保証も特に行っていない。

屠殺場移転予定地は、ポブラシオン及びDASの両市場共、屠殺場の移転が必要となっていることから、両市場を結ぶ幹線道路沿いに予定しており、両市場に肉を供給する計画である。移転予定地はポブラシオン市場からは約12km、DAS市場からは6km程度のところにあり両市場から離れているが、運営は市の直営であり、流通には市(市場)の職員が直接行うことから問題ない。両市場に隣接する既存の屠殺場は、位置的にも衛生的にも問題があり、国の規準に基づいて移転の勧告を受けている。ここは以前小規模な公共市場だったが、その後すたれ、現在は家畜の競りが時々開かれているだけである。傾斜地を切り開いた平坦な敷地で、屠殺場を建設するために必要な広さは十分にあり、敷地の位置、形状、環境は適している。

#### ● 問題点及び所見

両市場共、市場本体については先方が改修を行っており、優先度、緊急性は他の市場に比較して低い。

更にポブラシオン市場の敷地は海に面しており護岸を必要とするが護岸工事を  
含めた敷地準備工事にかかる事業日程の見通しが不明であることから、今回の計  
画に含めることは困難である。

DAS市場の敷地境界線は現地調査後確定したが、増設に必要な敷地面積を確保  
出来ないことが判明した(資料編 A-32 参照)。

また両市場共、市場本棟の増設及び改善が出来ない以上、現屠殺場の移転計画  
の必然性は薄い。

図3-1-11 トレド市、ポブラシオン市場

付近見取図、敷地位置図

市役所、既存市場

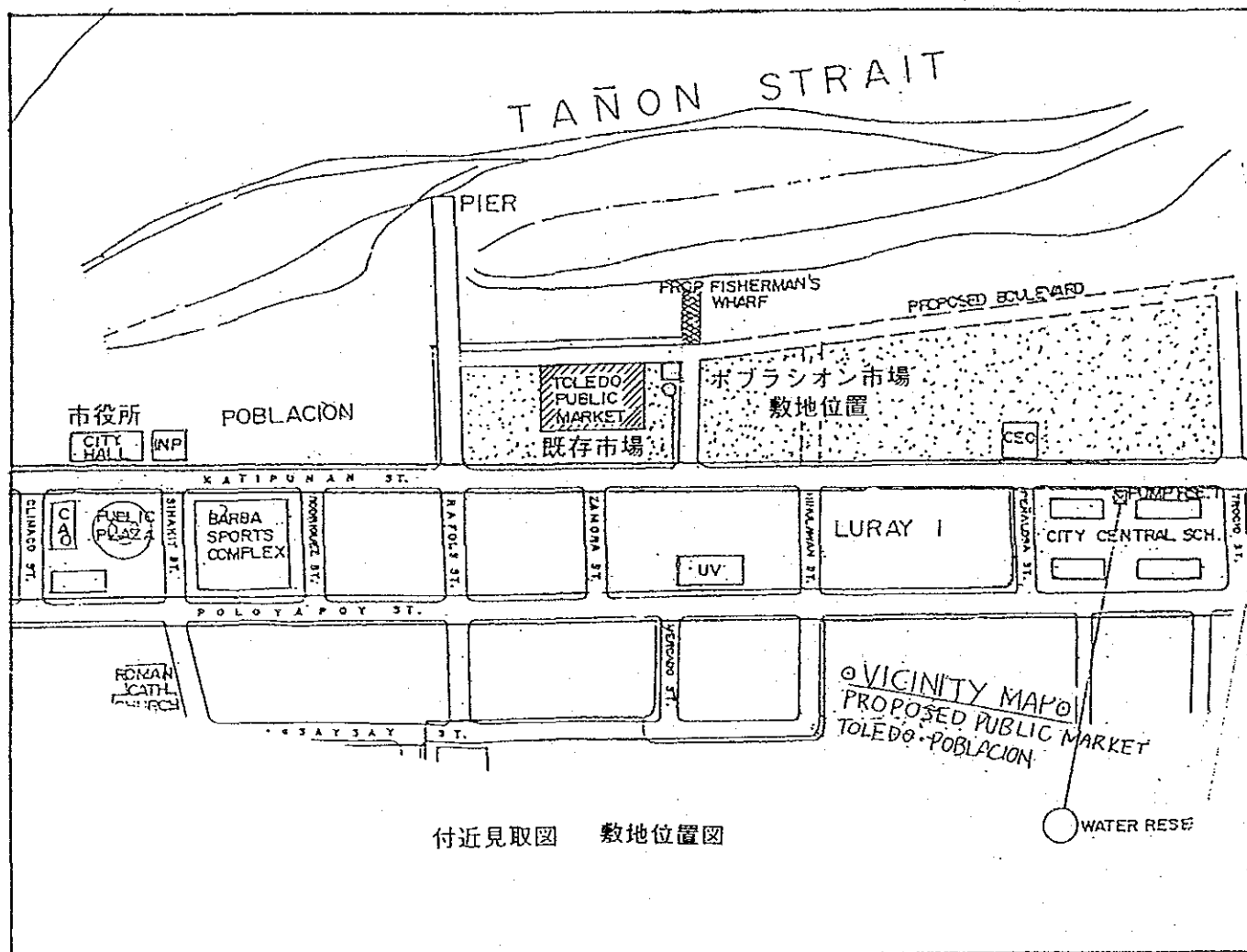




図3-1-12 トレド市、既存ポブラシオン市場配置図

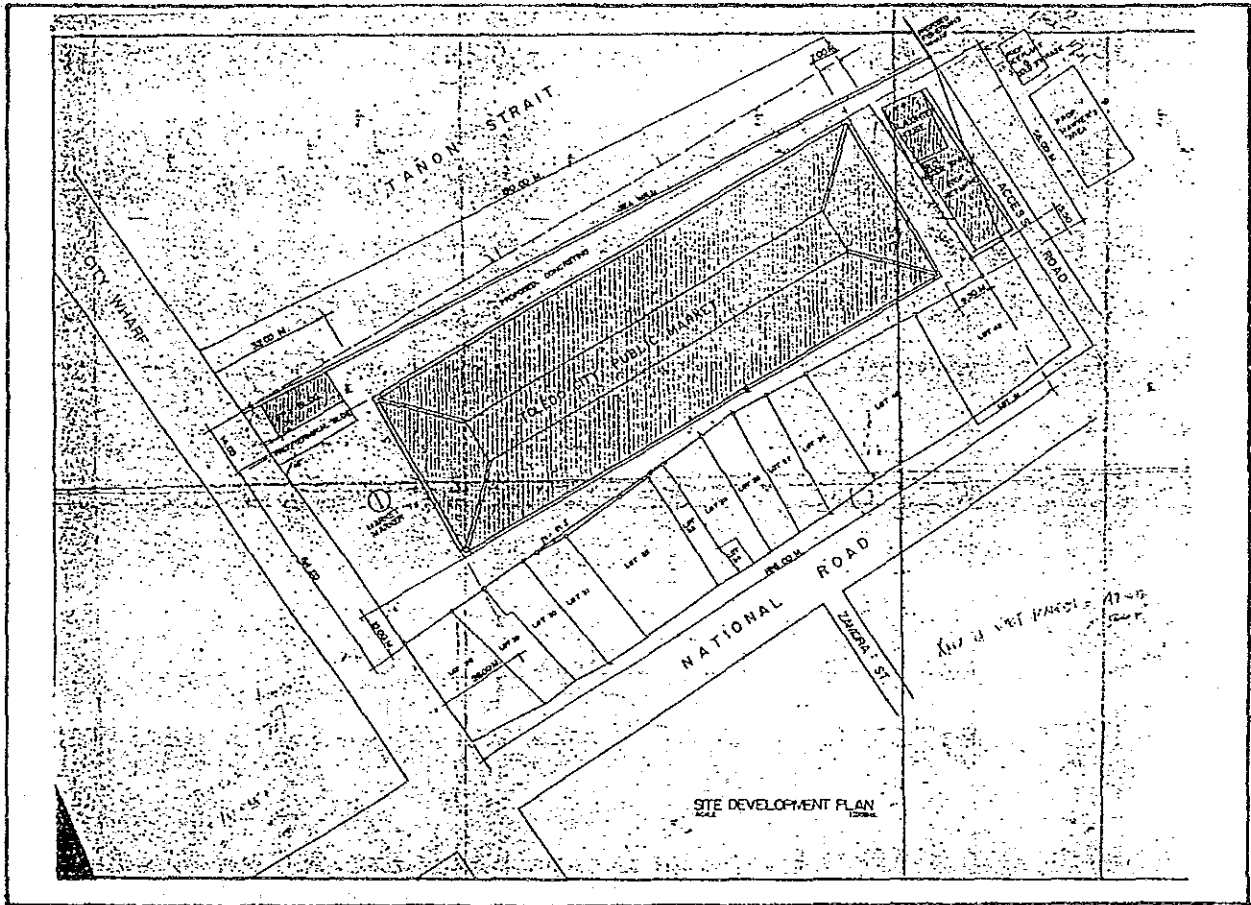


図3-1-13 トレド市、既存ポブラシオン市場平面図

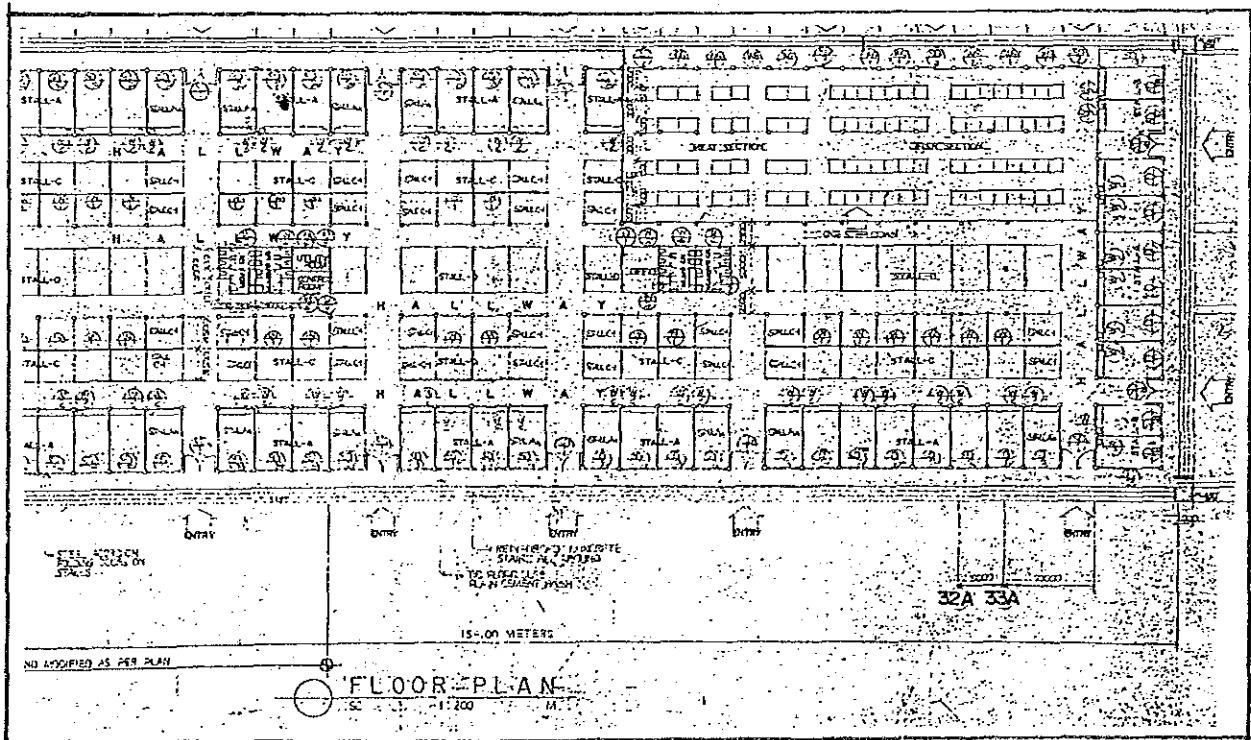


図3-1-14 トレド市、既存DAS市場平面  
敷地位置図

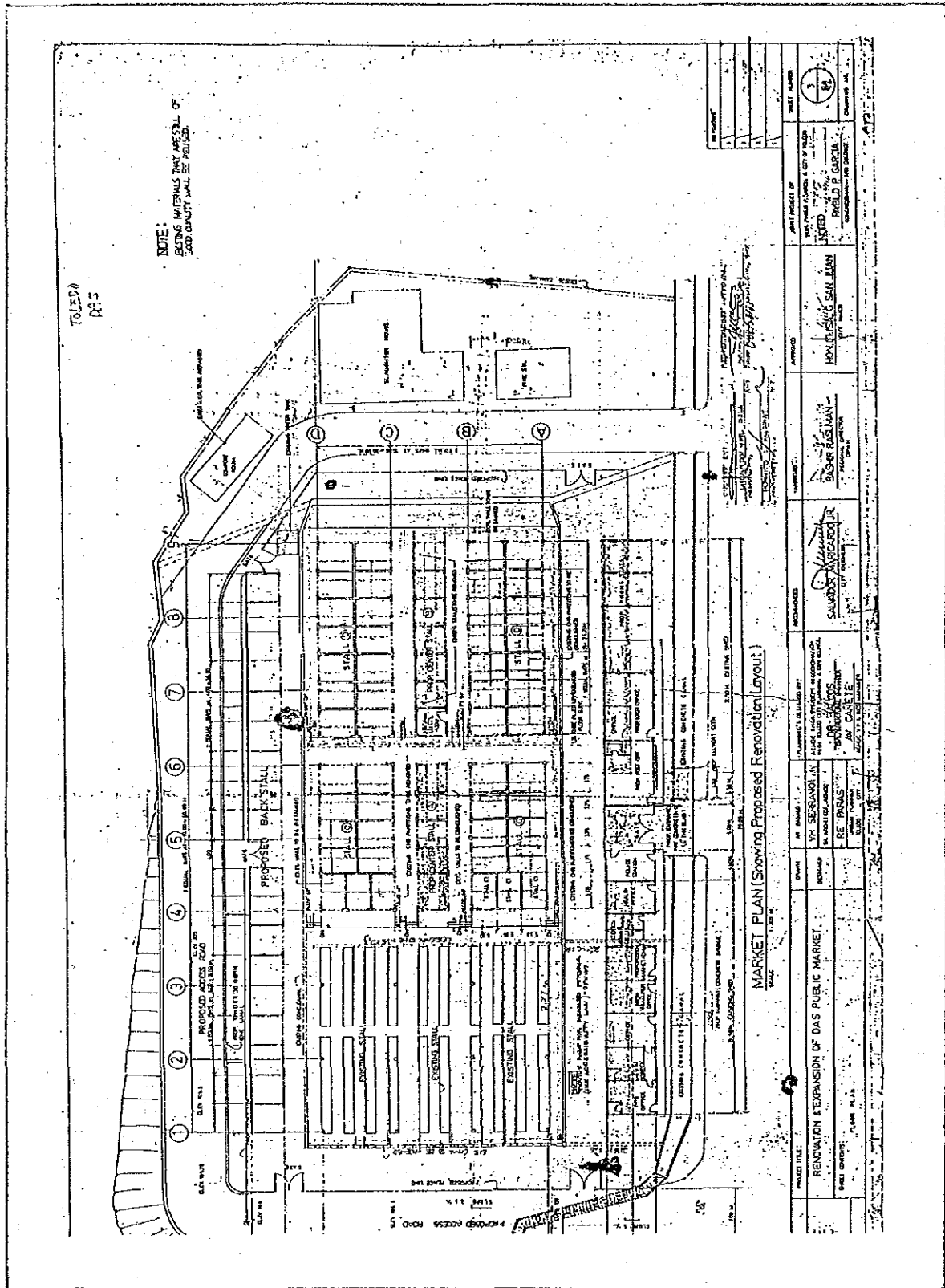
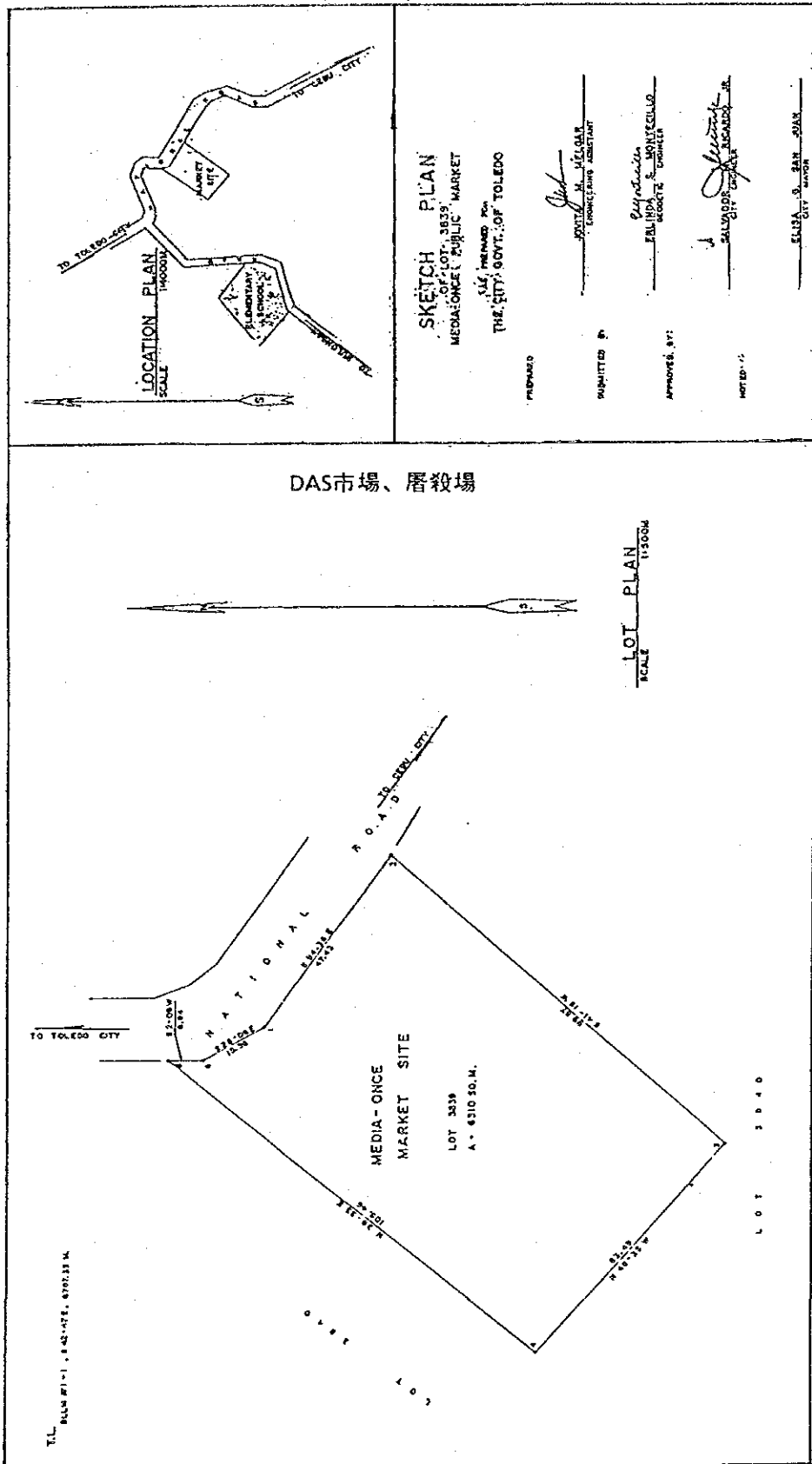


図3-1-15 トレド市、DAS市場、屠殺場敷地図



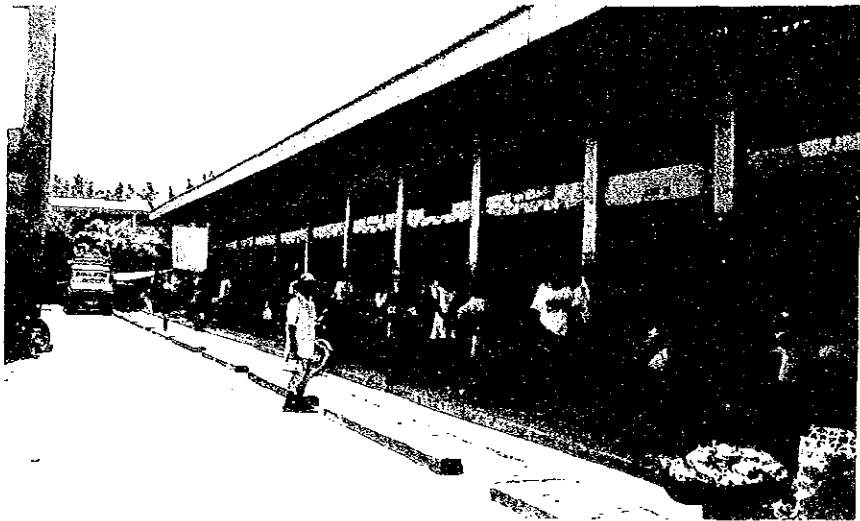


市場の現況① トレド市場、(1) ポブラシオン市場

市場及び前面道路  
(広場)



市場外観



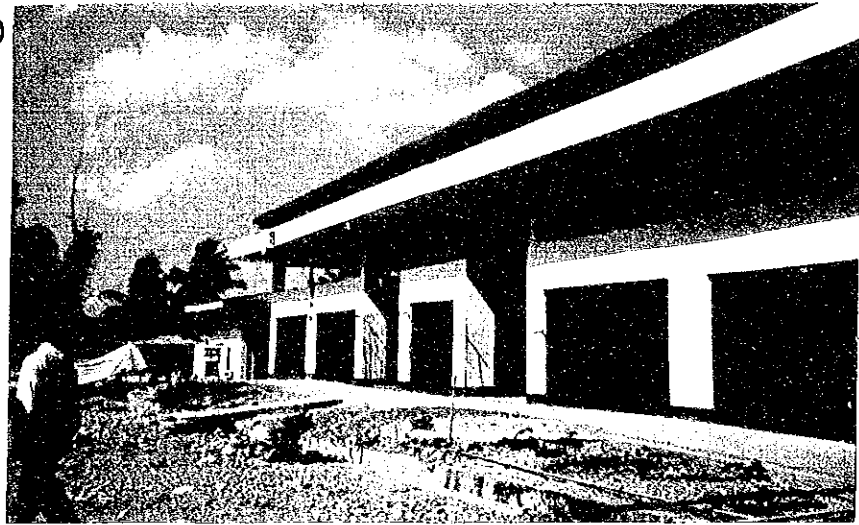
市場内観



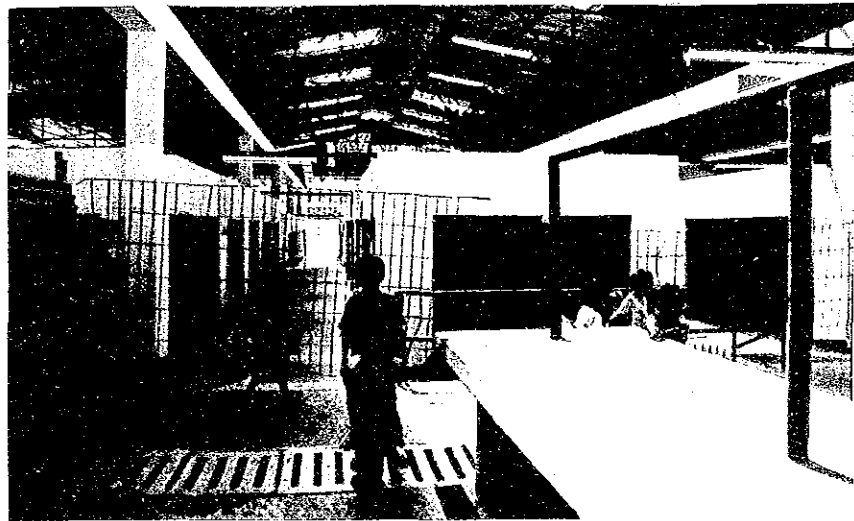


(2) ドン・アンドレス・ソリアーノ (DAS)市場

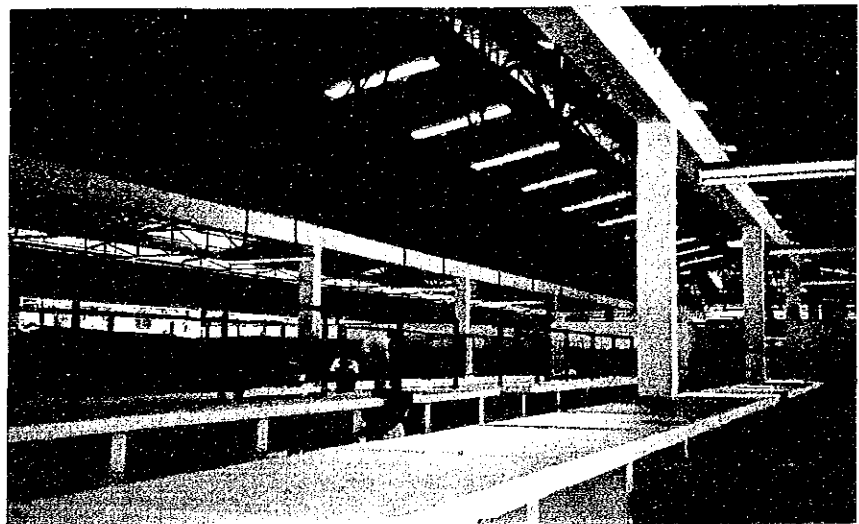
市場外観 (改修直後)



市場内観  
ブース型店舗  
(改修直後)



市場内観  
魚・肉売場販売台  
(改修直後)

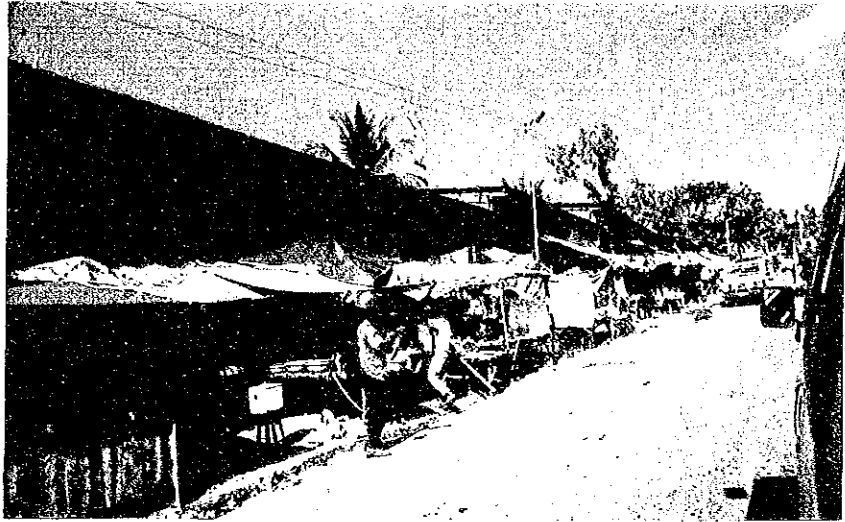






敷地の現況① トレド市場、(1)ドン・アンドレス・ソリアーノ (DAS) 市場

前面道路の仮設店舗



市場増築敷地



既存屠殺場外観  
(市場増築敷地)



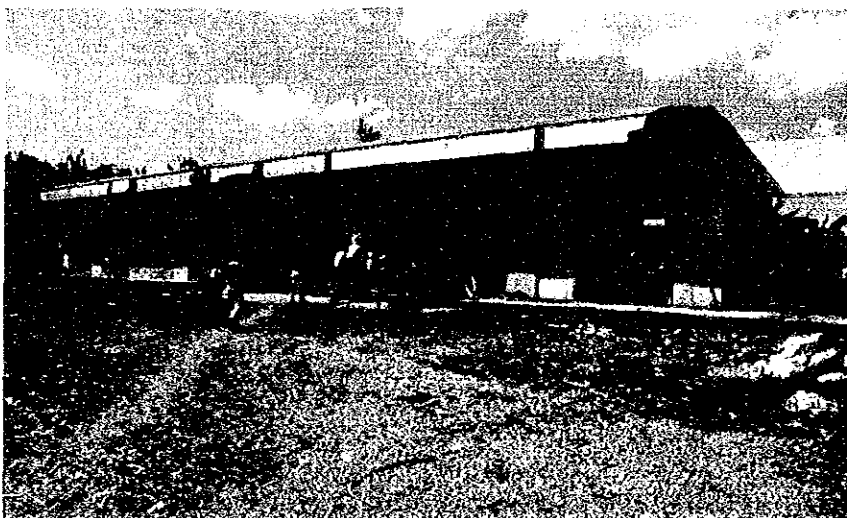


(2) DAS 市場屠殺場現況、新屠殺場敷地現況

屠殺場新敷地



屠殺場新敷地



既存の屠殺場内部





## 5) オロキエタ市 (Oroquieta City)

オロキエタ市は、ミサミス・オクシデンタル県の県都であり、その人口は、1990年の統計によると52,531人で人口増加率は1.9%である。当市は、47の集落(バラングイ)から成っており、そのうち34の集落は農村型集落である。当市の経済活動は、主に農業である。主な農産物は、ココナッツ、米、とうもろこし、野菜、根菜類で、その他にバナナ、コーヒー、果物を産する。また、当市には2つの重要な製造業がある。一つは、ココナッツとバナナの乾燥食品製造で、もう一つはココヤシ皮の繊維の製糸とドア・マットなどの製品の製造である。その他に、貝殻細工、家具製造、製材、製粉がある。

オロキエタ市には、現在ラヤワン川沿いで、商業地区の中心地に一か所公共市場が設置されている。店舗数688で、8つの主要な建物(4ブロック)から成っており、主に鮮魚、食肉、野菜・果物、加工魚、穀類、日用品・雑貨、衣類等を扱っている。

当市は交易と商業が主たる産業で、当該市場は他県市町村、特にアロラン及びロベス・ハエナを後背地として、交通の中心及び商業のセンターとなっている。

### ● 既存市場の現状

同市および周辺の地域は、典型的な農村地域であり、急激な人口増加は無く、5万人前後で推移している。

既存公共市場の敷地内には、マーケット・ビルディングA、Bおよびバラック群、管理事務所、屠殺場、農産物配送場、水産物配送場、公衆トイレ、消防署棟の建物がある。

敷地面積は、1.8haで、マーケット・ビルディングA、B、バラック群、露店部分の4ブロックで構成されている。市場の各所は混雑を極め、また不衛生、排水不良からくる悪臭が市場周辺の排水路から発生している。常設店舗は、688を数え、3つの建物に分散して営業している。このほかマーケット・デーに約400の露天商が道路いっばいに店を張っている。また屠殺場、公衆便所は市場区域内にあり不衛生である。

マーケット・ビルディングAは、40店舗の食堂(CARINDERIA)棟となっているが、商売替えをして食堂ではなくなっている店舗もある。建物の老朽度はさほどではなく衛生状態も悪くはないが、手狭で、ベンダーの自前の改造、工夫の跡が目立つ。

マーケット・ビルディングBは、376の鮮魚、食肉、野菜など生鮮食料品の店舗と日用雑貨、衣料品の店舗が入っている。建物は鉄筋コンクリートの柱と鉄骨製のトラス造りで、老朽化もさほどではないが、A棟同様、手狭でベンダーの自前の改造・工夫の跡が目立つ。非常に混雑しており、棟内の換気、排水、照明設備等も十分とはいえないが、他のマーケットと比較して環境は良い。

マーケット・ビルディングAの隣地に104店舗のバラックがあるが、「オールド・マーケット・エリア」と呼ばれている。ここは1973年5月の大火及び1990年7月のウリン台風により被災し、旧式の市場建物が取り壊された後に、次第にバラックが建てられた所である。このため、床のコンクリート舗装もされておらず、また、排水施設が無いため、衛生的に問題がある。また、このブロックは台風ルピンの被害が最も大きかった部分でもあるが、現状から、通常の風雨でも容易に被害が出る状態である。災害の後、現在104軒の売店(主として衣料)が仮設営業しているが、危険なため早急に改善の必要がある。

露店が集合している地域は、ラヤワン川に沿った、屠殺場の隣にあり、常時100前後の露店がテント張りで営業している。週末には非常に混雑している。また、既存の屠殺場は、老朽化が進んでおり、政府の食肉検査官からも衛生面の改善及び、移転について勧告を受けている。

- 問題点及び所見

現状から要請のような市場全体の改修の必要性は低く、台風被災の著しいバラック部分に限定する。バラック群の跡地は、不衛生かつ危険なため早急に改善の必要がある、敷地準備の手続は完了し、住民の同意が得られているので事業実施に問題はない。

屠殺場の移築について、市は移築予定地を既存市場に沿ったラヤワン川の対岸に確保しているが、登記上はまだ私有地である。土地取得手続を除けば敷地の位置、形状、環境は屠殺場として適しており、問題はないが、現在、屠殺場の土地取得手続は未完了であるため本計画に取込むことは困難である。

図3-1-16 才口キエタ市、付近見取図  
市場、屠殺場  
敷地位置図

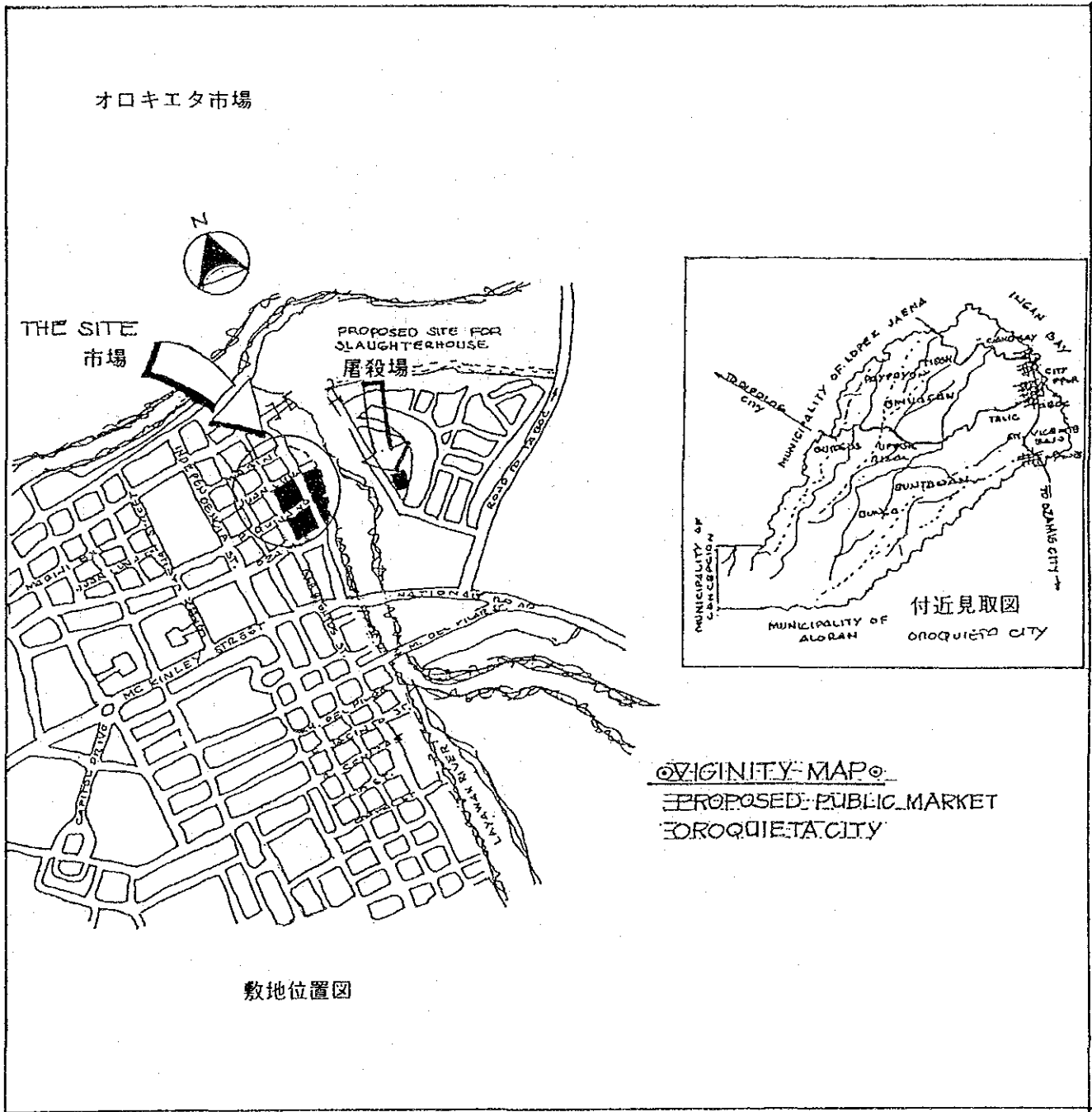


図3-1-17 オロキエタ市、既存以上施設配置図、配置図プロポーザル

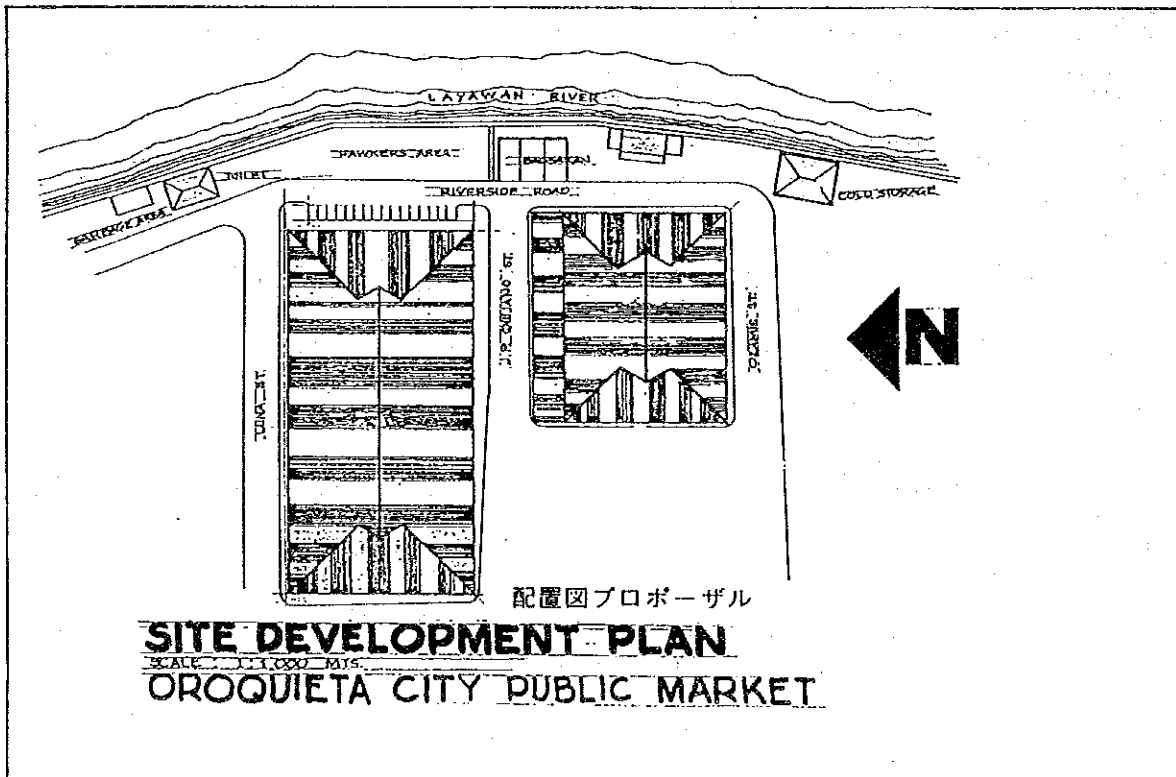
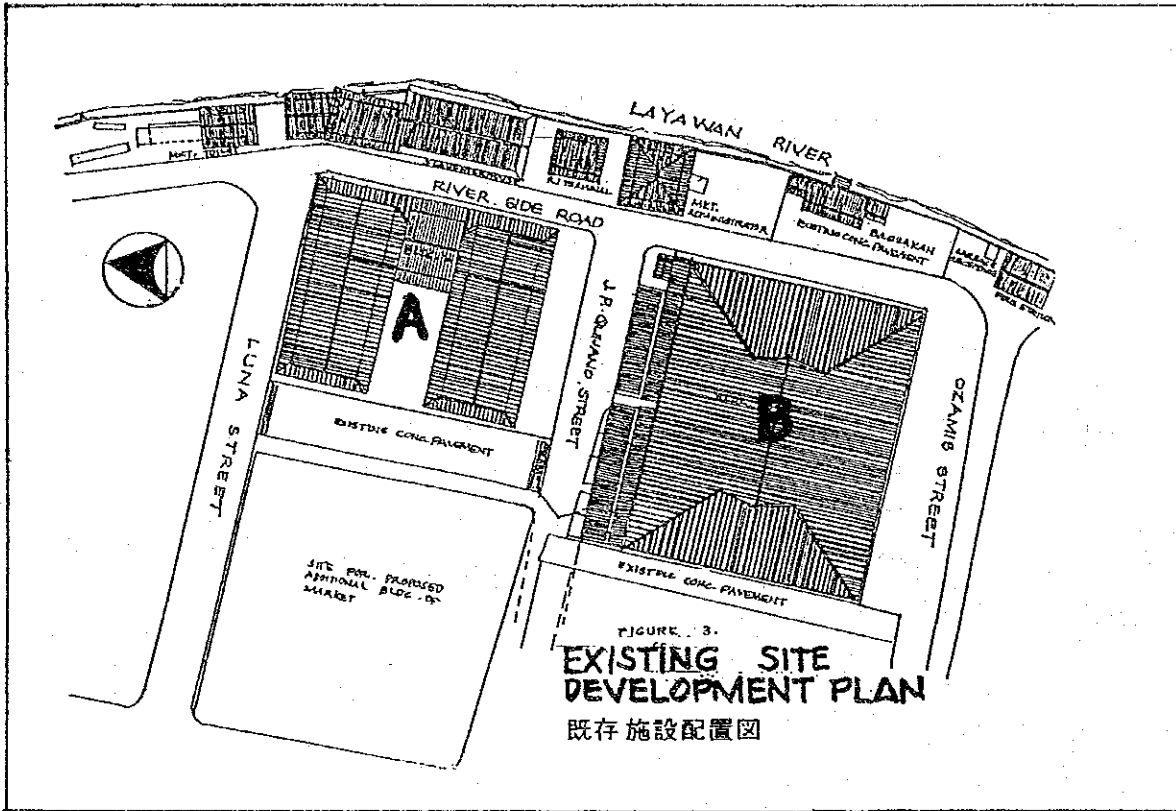




図3-1-18 オロキエタ市、既存Bブロック平面図

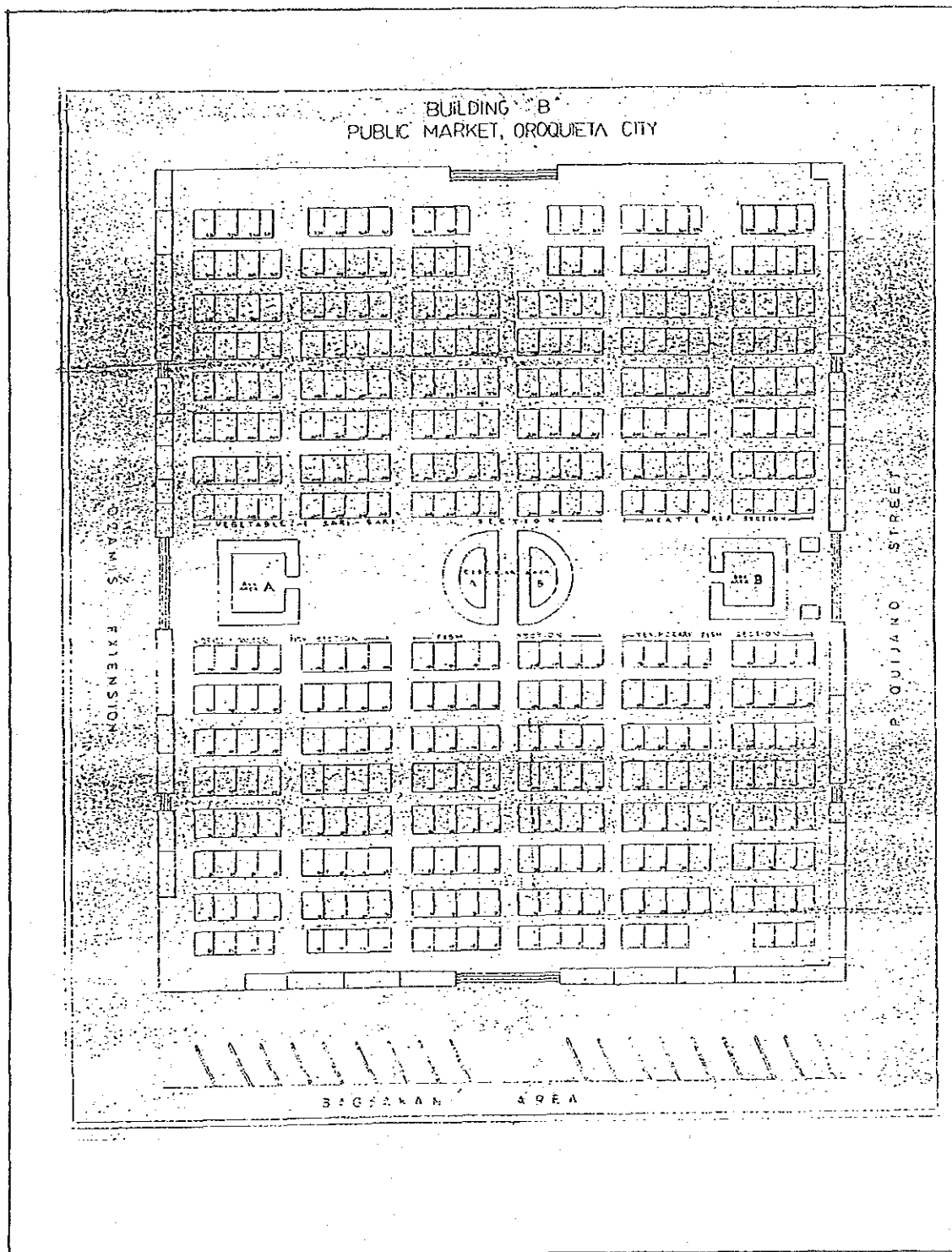
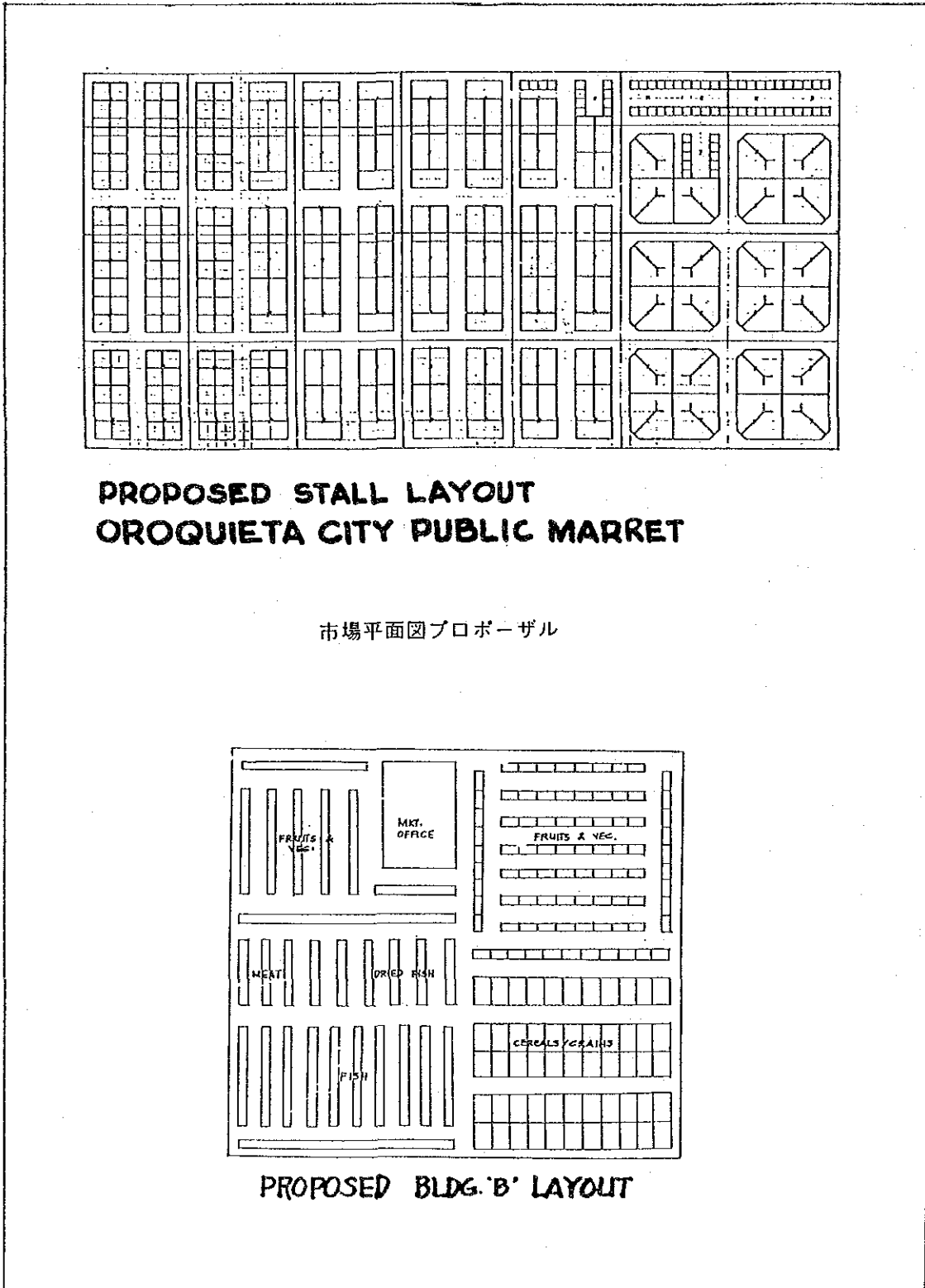


図3-1-19 オロキエタ市、市場平面図プロポーザル

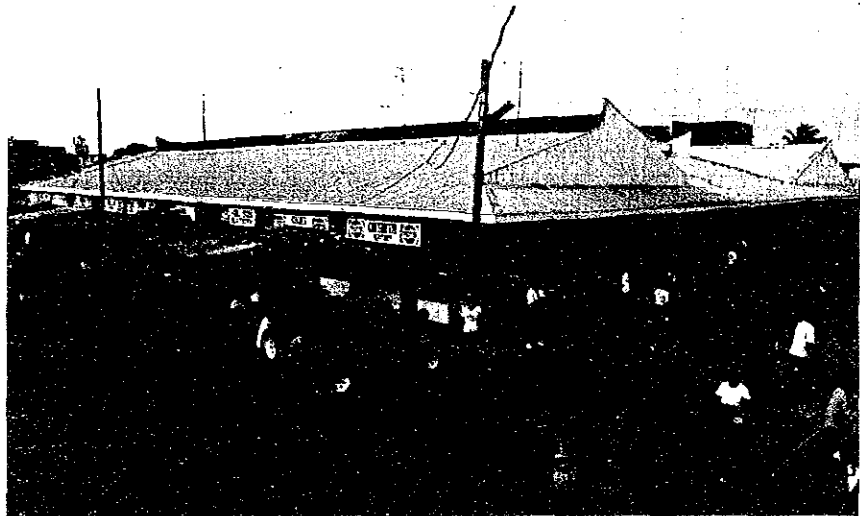


既存市場の現況① オロキエタ市場



市場全景

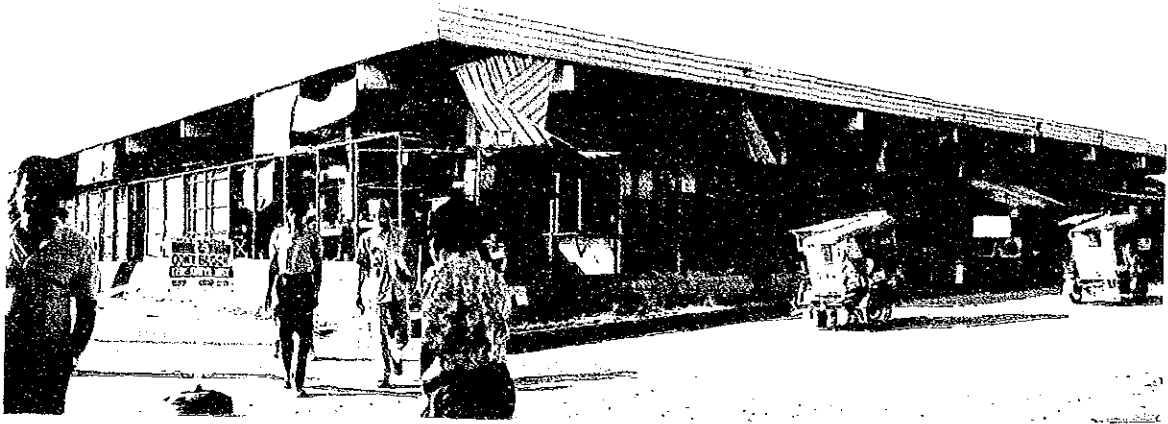
市場 A (食堂)



食堂

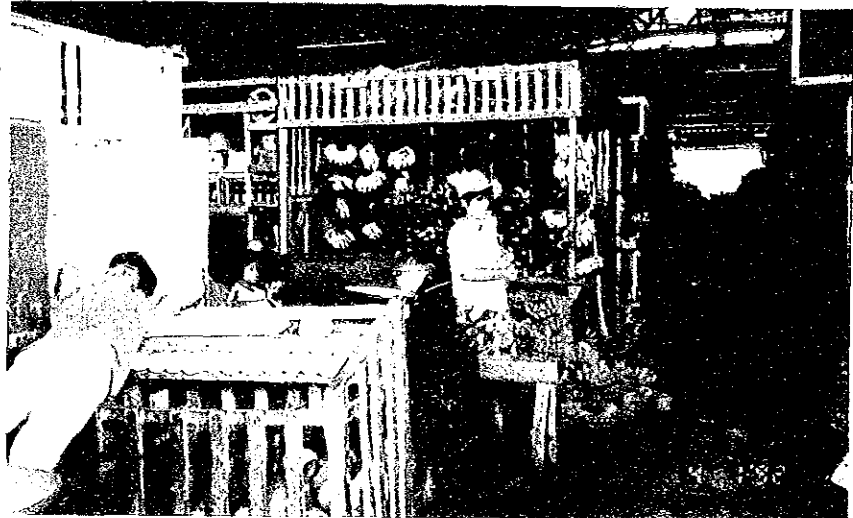






市場B 外観

市場B 内観  
木製ブース型販売台

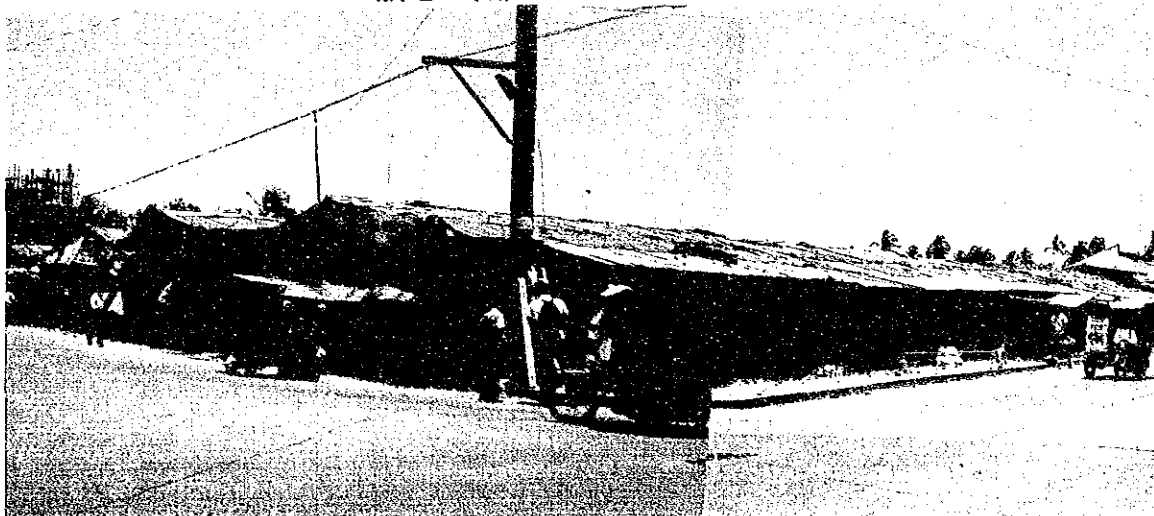


魚売場・販売台





敷地の現況① オロキエタ市場



市場バラック群 (改修部分)

市場バラック群  
(改修部分)



バラック群内観

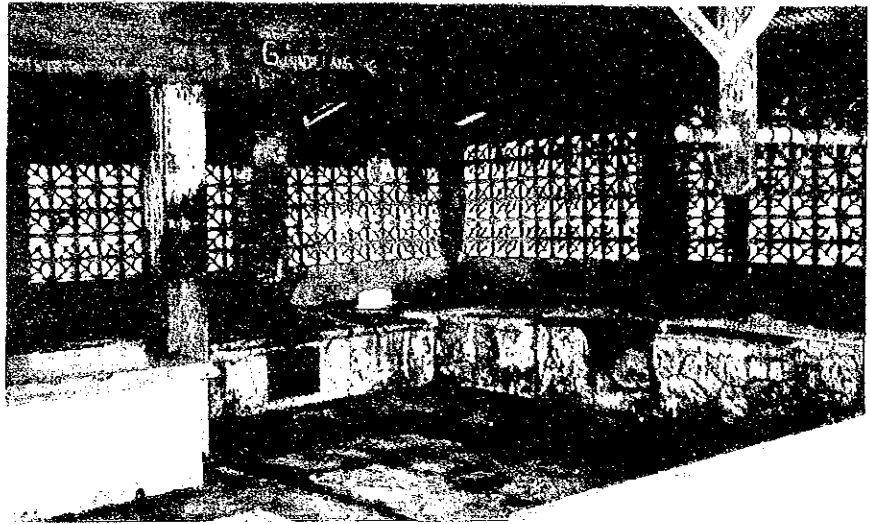






屠殺場の現況、屠殺場新敷地現況

既存屠殺小屋内観



屠殺場新敷地の  
前面道路



屠殺場新敷地





#### 6) サパン・ダラガ町 (Sapang Dalaga)

サパン・ダラガ町は、主に自給農業主体である。同町は人口21,588人、オロキエタ市から40kmの距離で町内に公共市場は、1か所だけである。同町は山間部にあり、ココナッツが唯一の農産品である。

同町はオロキエタ市より40km北にあり、道路が未舗装で整備が悪く車で90分位かかるが、現在道路工事中で、1992年中には、ほぼ完成する見込みである。

#### ● 既存市場の現状

市場は町の中心地にあり道路巾は6mで町中の道路は舗装されている。敷地の形状は東西に長く南北に短い長方形であり、南側の長辺が国道(巾員8m)に面し、道路から施設まで約5mの空き地は駐車場となっている。また、敷地は2段となっており、上段に8棟の市場建物があり、下段(約3m下る)に肉・魚市場及び便所棟がある。山間部にある典型的な地方/山村市場で、現在週一回(金曜日/マーケット・デー)市場が開かれ、約90軒の各種店舗と約200軒の露天商が集まる。

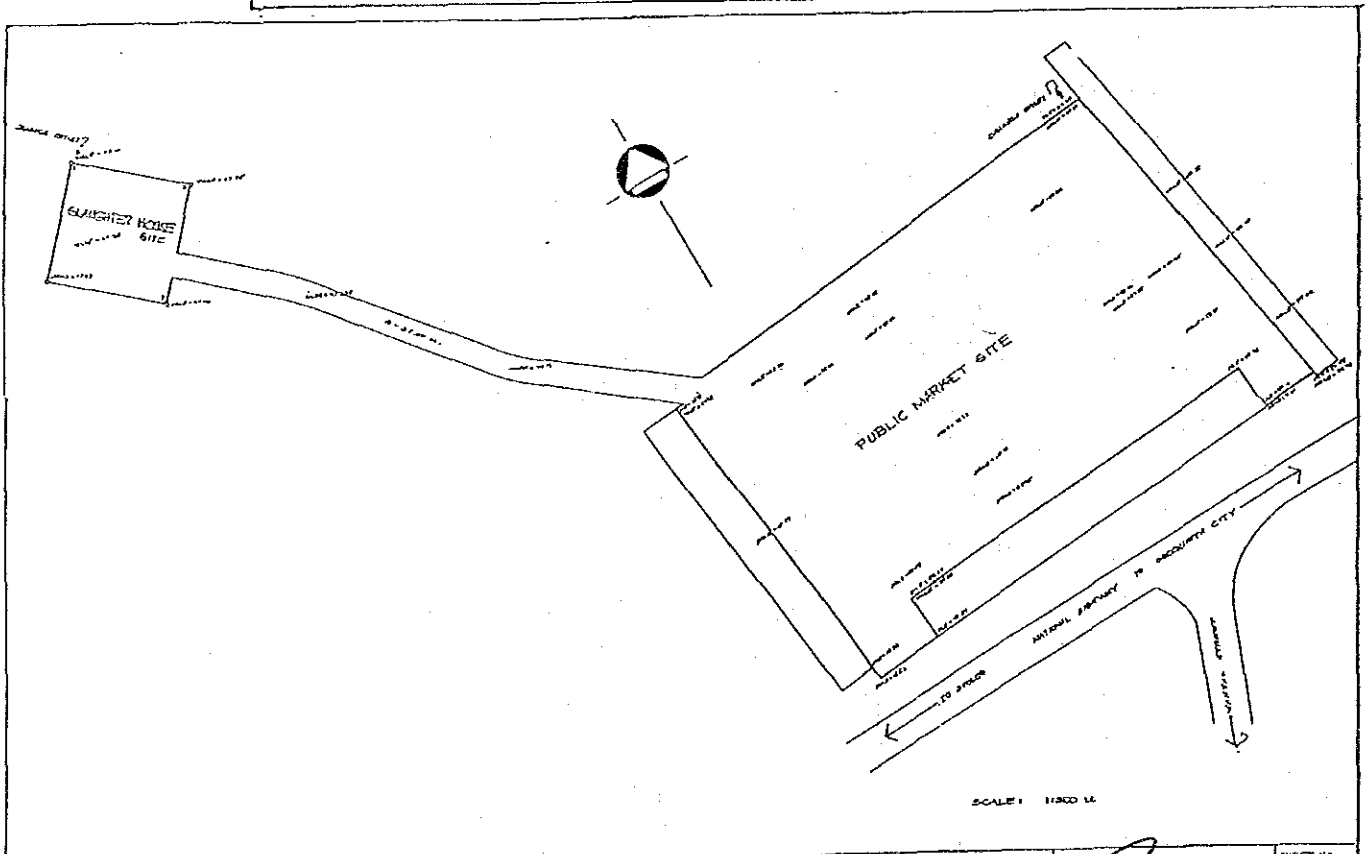
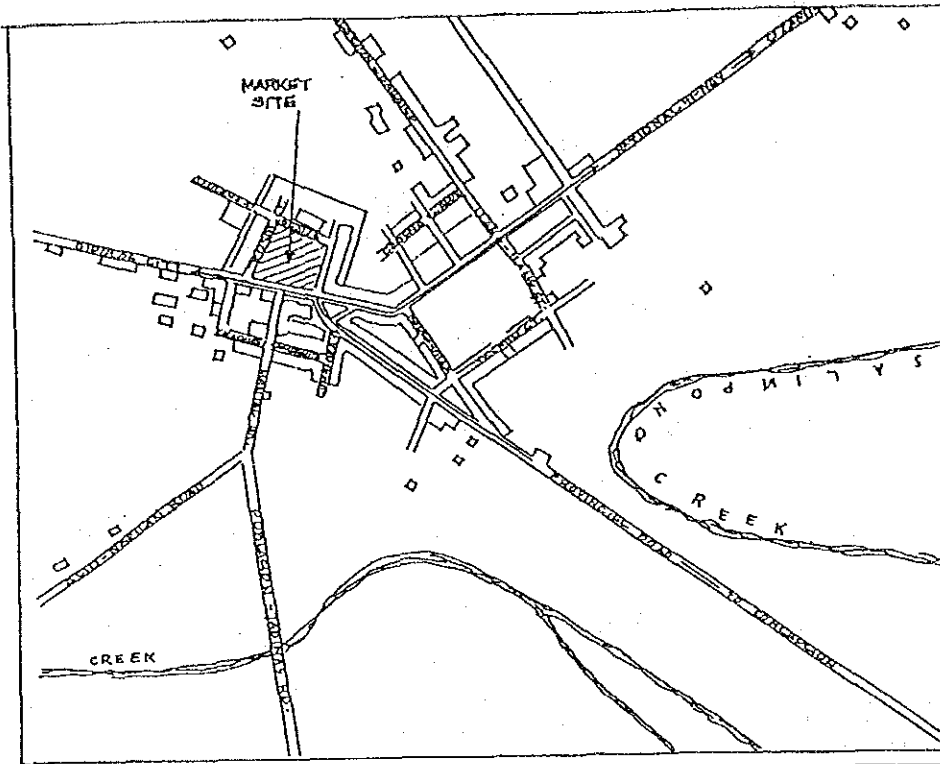
改修計画要請施設は市場の中央にある3棟と市場敷地に隣接する露天の屠殺場である。市場本棟の上屋は老朽化が進んでおり、加えて、台風により柱が土台からずれたために倒壊の危険がある。施設のインフラについては電気の供給設備はあるが、計画停電が行われているため供給量は不十分である。そのため揚水ポンプが十分稼働せず水供給量が不十分なので給水施設の整備が必要となる。電気確保のため発電機設備が考えられるが、保守に不安が残るため、現状では手動の井戸ポンプの設備が妥当と思われる。近所(約500m離れた場所)で手動ポンプが使われており敷地内の鑿井は可能と思われる。

屠殺場敷地は町の所有地で市場本棟から約100m離れた場所に位置している。敷地は平坦で障害物は無く、法的設置規準にも問題のないことが確認されている。

#### ● 問題点及び所見

台風被害に加えて老朽化がひどい部分の緊急な建替えが必要である。市場本棟は危険なため他の週日には午後から若干の店舗が営業しているにすぎない。週一回しか市場が使われていないのは、危険であるため、建替えを前提とした暫定的処置である。市場使用に関する住民の同意書等から計画に支障はなく、市場の現状から改修の必要性は高い。給水施設は計画停電が行われておりポンプが十分稼働出来ないため、手動井戸ポンプ等の設備で補う必要がある。

図3-1-20 サパン・ダラガ町、既存市場の位置図  
市場、屠殺場敷地図



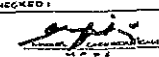
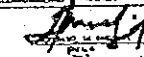
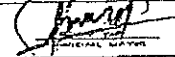
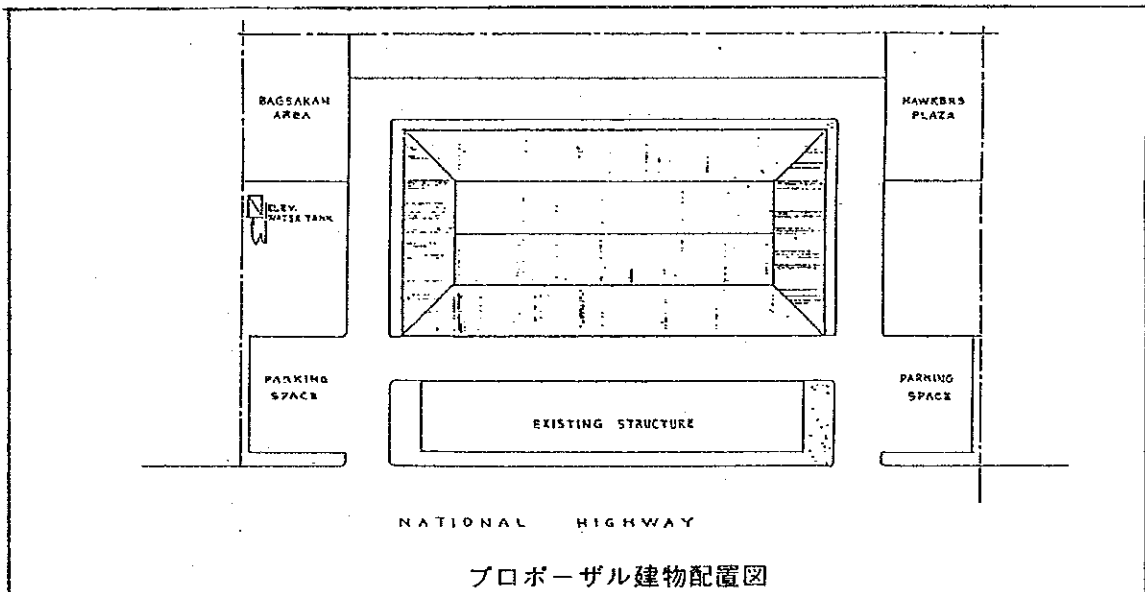
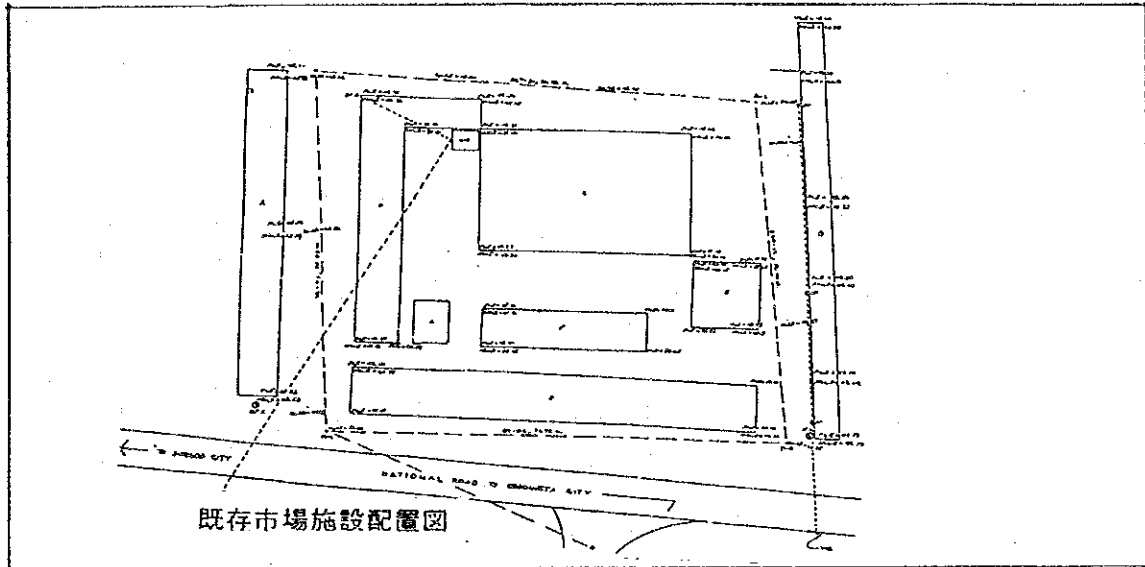
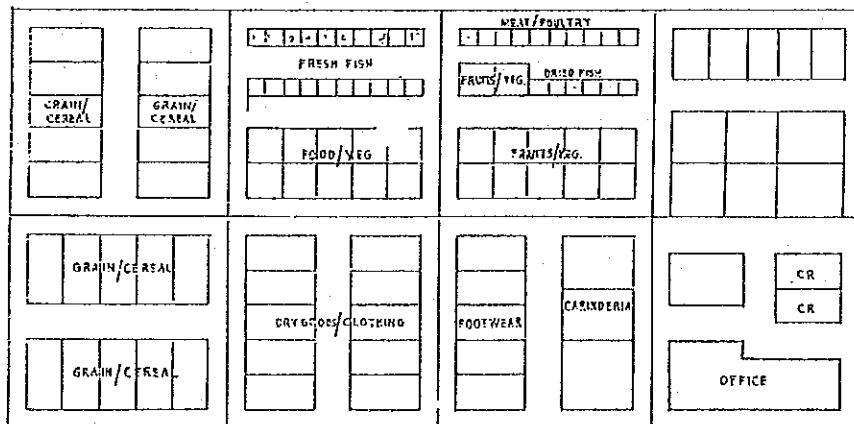
REPUBLIC OF THE PHILIPPINES MUNICIPALITY OF SAPANG DALAGA PROVINCE OF MS. OCCIDENTAL	PROJECT: PUBLIC MARKET AND SLAUGHTER HOUSE SITE DEVELOPMENT PLAN LOCATION: PUBLIC MARKET, 10th, DALAGA, MS. OCC.	CHECKED BY: 	RECOMMENDING OFFICER: 	APPROVED BY: 	SHEET NO. 3
--	---	--	---	---	----------------

図3-1-21 サパン・ダラガ町、既存市場施設配置図

プロポーザル建物配置図、平面図



SITE DEVELOPMENT PLAN  
SCALE 1 : 500 MTS.



平面図  
LAYOUT PLAN  
SCALE 1 : 250 MTS.



敷地・市場の現況 ① サバン・ダラガ市場

既存市場を前面通路  
より見る



市場敷地内部 (中央及び右側本棟の建物を改修する)

改修する市場本棟



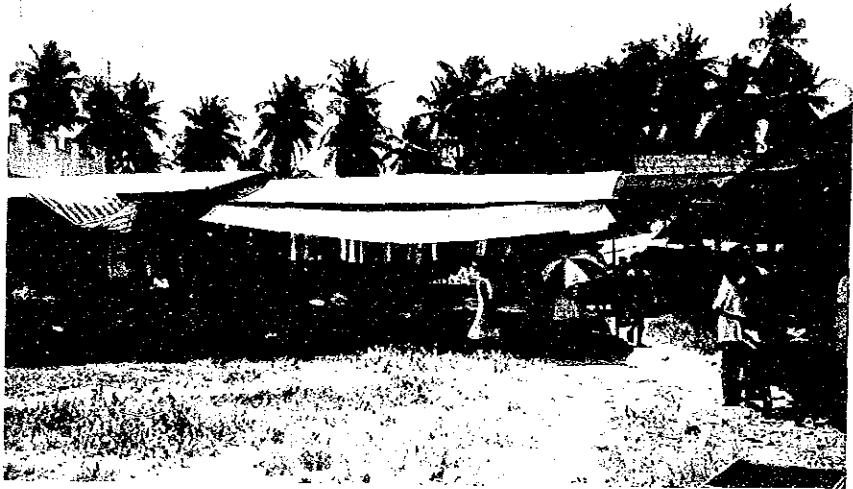




仮設店舗



仮設店舗



仮設店舗





台風被害状況  
柱が土台よりずれて  
いて危険なため本棟  
は殆ど使われていな  
い。



屠殺場敷地



屠殺場敷地





表3-1-3 要請公共市場の敷地状況及び調査概要

調査市場	現 状	要 求 内 容	現 況	収 集 団 体 お よ び 確 認 事 項
<p>① ラブラブ市場 セブ県、ラブラブ市 人口: 146,194 (1990) 調査日 3/19(木) 全 3/23(月) B 4/2 (木) A</p>	<p><b>既存市場</b> 敷 地: 市の商業地域の中心地 敷地面積: 約1 ha 店舗数: 659店舗+露店 施設状況: 台風により、窓、軒に被害、老朽化</p> <p><b>新サイト</b> 敷 地: 高規格新設道路に面する 敷地面積: 3 ha 敷地状況: 土地収用手続中、1軒の居住者あり、地形は平坦だが新設前面道路断面より30~50cm低い。埋戻しを要す。 インフラ: 新設道路工事と併行して工事中。電気給水排水の計画あり。</p>	<p>1) 新市場の建設(4,763m<sup>2</sup>) 500店舗 2) サイト、付随施設整備 管理事務所、便所、ゴミ集積所 ポンプ小屋、駐車場、構内舗装 荷下ろし場、露店スペース(2,619m<sup>2</sup>) 3) 冷蔵庫(氷蔵庫)</p>	<p>新サイト候補地は、土地の取用手続中 最期前に申請書が出ている 居住者の立ち退き手続中 サイト地盤は新設前面道路より30~50cm低い ため埋戻しが必要であるが、予算措置あり。 敷地外のインフラは、前面間及び設置の確認書あり 厨役場は既存を継続使用可 ※ ドラフト・ファイナルレポートの確認打合せに おいて、前面に対する市民の同意が得られな いことが確認された。</p>	<p>敷地図 電気、給排水計画図及び設置確認書 土地収容、登記申請書(コート・オーダー) 下請業者リスト及び工事費見積価格表 市場の賃貸料 ※ 必要店舗数は1,000店舗で要請は500店舗 である。残りの500店舗は、現市場を改 修して対応する方針。 ※ 統一審査中であり、少なくとも審査期間 中は、市民の個人の利用に関する交渉はし にくい。(特に、住民の立ち退き、店舗 の移転及び補償交渉入居者の優先順位決 定、土地取得交渉等)</p>
<p>② カルカル市場 セブ県、カルカル町 人口: 70,841 (1990) 調査日 3/20(金) 全 3/24(火) B 4/3 (金) A</p>	<p>町の中心地 敷 地: 1.2 ha 敷地面積: 148店舗 店舗数: 全体が低地にあり、台風の被害は浸水によるもの大 敷地状況: 既存の建物6棟、中央部の木造3棟が老朽化。漏排 施設状況: 水が周辺排水路より水田に流れ込み排水に支障 ● 仮設の厨役場あり。晴天、不衛生。</p>	<p>1) 既存市場一部建替え 中央部木造3棟及びバラックの建替 2) サイト、付随施設整備 管理事務所、便所、ゴミ集積所 ポンプ小屋、駐車場、構内舗装、 荷下ろし場、露店スペース 3) 厨役場 4) 冷蔵庫</p>	<p>仮設店舗、移転地は旧市場の跡地、まとまった広 さとして、一部上原があり、大部分のベンダーおよび 小売組合の間に移転の同意あり。 老朽化した建物の建替えおよび構内排水の改良が 必要。 敷地内の厨役場は不衛生で建替えを要す。また新築 に当たっては、市場より300m以上離すよう指導 されており、移転の必要がある。 新設厨役場用地には居住者がいる。移転地は用意さ れているが、移転の交渉及び移転の同意には至っ ていない。 ※ 統一審査期間中で責任者が不在のため、作業 が進展しない。</p>	<p>敷地図、配置図 店舗の移転計画図及びベンダーの移転同意 書 厨役場の敷地図及び居住者の移転地 工事期間中の店舗の仮移転用地の確認 市場店舗数の確認 厨役場用地確保の確認</p>
<p>③ ダナオ市場 セブ県、ダナオ市 人口: 73,358 (1990) 調査日 3/20(金) 全 3/25(水) B 4/1 (水) A</p>	<p>市の中心の商業地区内 敷 地: 約1 ha 敷地面積: 300店舗(+600の臨時店舗) 店舗数: 台風被害は、周辺居根部に見られ、また場内の 施設状況: 店舗2棟が壊れたまま。 厨役場が道を隔てた新にある。 市場移転後は、商業地区又は市民公園として再開発の構想がある。</p>	<p>1) 新市場の建設(4,147m<sup>2</sup>) 350店舗 2) サイト、付随施設整備 管理事務所、便所、ゴミ集積所 駐車場、構内舗装、荷下ろし場 露店スペース(2,475m<sup>2</sup>) 3) 冷蔵庫</p>	<p>土地は取得済みであり、土盤の見直しもついで のため火災などの不安はない 厨役場スペースに問題があったが、調査期間中に 建設の更地(体育館の隣り)が市の土地であり復旧 可能であるため、支障はない。 調査時、要請店舗数を500店舗に変更。 厨役場を移転 ※ 衛生者移転</p>	<p>敷地図 土地登記簿 居住者の移転確認書及び移転計画図 (移転地及び移転者を現地確認) ベンダーの移転合意書及び市長と小売組合 との移転確認書 台風被害の被害状況 若干の建設費材料コスト情報</p>

調査市場	現 状	要 請 内 容	現 況	取換図書および部認事項
③ ダナオ市場 セブ県、ダナオ市 人口: 73,358 (1990) 調査日 3/20(金) 全 3/25(水) B 4/1 (水) A	<b>新サイト</b> 敷 地: 既存のママーケットより300~400M離れた所 市役所より、体育館をはさんで100~150m 3.6 ha 敷地面積: ● 地形は部分的に低い所があり土盛りが必要を所であるが、市近郊のゴルフ場建設地より造成残土を搬入する事が決定。市場建設部の敷地均し。障害物の撤去工事中。体育館隣に更地の駐車場用地確保。 ● 重力式水道施設より給水を受けられる ● 排水は、サイト沿の小河川に雑排水の放流可能 ● サイト裏にゴミ捨て場があるが、移転地あり。約2km。		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 場外排水は敷地沿の排水溝に放流可。但し、若干の河川改修と貯留場と敷地を結ぶ架橋工事必要。ダナオ市で工事を行うこととを確認。</li> <li>● 市独自の計画を早くから進めており、サイトの準備も調査前にはほぼ完了している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市場の移転については、市と小売組合との間では合意が出来ており、個々のベンダーの入居申請もある。入居者の契約は、市場の事業決定後、早急に行う必要がある。</li> </ul>
④ トレド市場 (5ヶ所) セブ県、トレド市 人口: 119,970 (1990) 調査日 3/21(土) 全 3/26(木) B 3/31(火) A	<b>ポブラシオン市場</b> 敷 地: 市街地中心の海岸沿 敷地面積: 13,000m <sup>2</sup> 店舗数: 270店舗(ママーケットには600店舗) (現ママーケットはアメリカからの借入金により建設) 施設状況: ● 台風による被害は、市が修繕。旧市場は修復されたいないが、使用中。また市場岩壁が一部崩れているため市で修復中 ● 市場スペース拡張のため旧市場移転計画 ● 市場、冷蔵庫、管理事務所を計画 ● 駐車場あり 新市場の拡張及び旧市場の新設	1) ● 旧市場の建設 2) ● 旧市場跡地に建設 サイト付随施設整備 3) ● 冷蔵庫	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 居住者の移転同意書あり、143所帯中141同意</li> <li>● 居住者の移転地計画図があり現場では一部造成工事に着手している。</li> <li>● ウエックマケット拡張部分に居住している大部分の住民は移転に合意しているが、移転地の造成に相当な時間と予算が必要であり、完了時期を予測出来ない。</li> <li>● 拡張部分の敷地は海に面しており、海浜線の護岸工事を要す。明確な計画も予算もなく、敷地準備の完了時期を予測出来ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 敷地図</li> <li>● 市場現況平面図</li> <li>● 居住者移転同意書及び移転地造成図</li> <li>● テナント料リスト</li> </ul>
<b>DAS 市場</b> 敷 地: 市の南側にある嵐山町(アトラス山) 敷地面積: 約3,000 m <sup>2</sup> 店舗数: ドライグッツ61区画、ウエックマセクション110区画 (現在、改修中 4月中旬にオープン予定) 施設状況: ● 台風被害後、全面改修中の市場内店舗は前面道路で仮設店舗で営業。 ● 老朽化した旧市場の移転跡にドライグッツ部門の増設、冷蔵スペース、冷蔵庫の設置を計画	4) ● 冷蔵庫(冷蔵庫) 5) ● 乾物市場の建設 旧市場跡地に建設 6) ● サイト付随施設整備 消防士詰所、駐車場等	<ul style="list-style-type: none"> <li>● マーケットの改修工事はほぼ完了、4月中旬にオープン予定</li> <li>● 敷地は山合いの傾斜地にあり、敷地造成等の準備工事に費用を要す。</li> <li>● 旧市場の敷地内にファイアー・ステーションがあり、その増替えも必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 既存市場(改修部分)平面図(但し敷地の境界が明示されていない)</li> <li>● 旧市場跡地の面積は3,000m<sup>2</sup>とのことであるが敷地境界を示す図書がない。後日追加する。</li> <li>● ドライグッツ部門120店舗不足とのこと。</li> </ul>	
<b>新遷移市場サイト</b> 敷 地: ポブラシオン市場から12km、DAS市場から6km程度の所(メディアシアオンセ) 施設状況: 以前は、小規模な公共市場であった建屋あり。	7) ● 旧市場の建設(メディアシアオンセ) ポブラシオン市場・DAS市場共用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市場から旧市場が離れるが、専用輸送車を使用するので、問題ない。</li> <li>● 既存の建屋があるが、前面に旧市場建設に十分な広さの更地があるので、既存の建屋に影響ない。</li> </ul>		

調査市場	現 状	要 請 内 容	現 況	取集図書および確認事項
⑤ オロキエタ市場 ミザミス OCC 限、 オロキエタ市 人口: 64,600 (1990) 調査日: 3/23(月)~3/24(火) 全 3/31(木)~4/2(木) B 4/4(土)~4/5(日) A	敷 地: ラヤワン川に沿った市の中心地 敷地面積: 1.8 ha 店舗数: マーケット A、食卓 40 店舗 マーケット B、376 店舗 (生鮮・雑貨・衣料) パラック群、104 店舗 業 店、 100 前後 施設状況: ● ビルディング A、B、管理事務所、貸穀場、 農産物乾選場、水産物配送場、公共トイレ、 消防要員の 8 つの建物がある ● マーケットビルディング A、B 共に老朽化 台風の被害をなし ● パラック群は、床舗装、排水施設がなく不衛生 ● 貸穀場あり (老朽化、移動動室を受けている)	1) ● 既存市場の建設 パラック群の跡地 2) ● サイト、付随施設整備 ゴミ集積所、駐車場、 および公共ターミナル、 倉庫広場 荷下ろし及び配送場 3) 貸穀場	● ビルディング A、B には緊急の建設の 必要性は低い。パラック群は衛生的に問題 工事中、隣店舗は既存のマーケットビルディン グ A、B の周囲に移転、仮営業を行う。 ● 貸穀場の移転用地が現在登記上私有地 置換後すみやかに用地準備の手続が取れる場所な ので、悪劣が済み次第その種設置を補正するとの こと ※ 貸穀場用地としては、用地準備の手続が整えば適 地である。ドラフト・ファイナル時点で用地取得の 見通しが立っていないことが確認された。 ※ 台風ルビンの被害はパラック群に限られており、 雨風に対する緊急の修復は成されている。しかし 破損、老朽の程度が著しく、日常の雨風でも被害 が出やすい状況である。	● 取集図、地盤高低測量図 ● 配置図 ● ビルディング B の現況平面図 ● 工事中の店舗の移転計画図 ● 貸穀場用地として敷地提供の覚書及び敷地 の独立、竣工工事の手続措置あり (但し、当該敷地は、敷地準備工事の完了時間 が確認出来ず不適格) ● 地元事業者リスト ● 積算参考価格リスト ● 公共市場の営業時間に関する覚書、条例
⑥ サバングタラガ 市場 ミザミス OCC 限、 サバングタラガ町 人口: 21,990 (1990) 調査日: 3/24(火) 全 4/3(金)~4/5(日) B	敷 地: 町の中心にあり国道(巾道 8m)に面する 敷地面積: 約 0.5 ha 店舗数: 90 店舗 施設状況: ● 敷地内部が 2 段に分かれ上段に 8 棟の市場、 下段に魚市場がある ● 市場メインの上段の老朽がひどく危険な状況 ● 給水、排水処理施設不十分	1) ● 市場の建設 (1,776 m <sup>2</sup> ) 中央 2 棟および付随パラック解体跡地 に建設 ● サイト、付随施設整備 非戸、ポンプ小屋、高圧水塔 ゴミ集積所、駐車場、糞尿スベース ● 用穀場	● 老朽化がひどい部分の緊急な建設 が必要 ※ 附随パラックの建設は要請に含まれていなかった が、現地調査時の要請及び現状から計画に取込む のが妥当と判断。(約 40 店舗分) ※ 水源は市場より 600m 程離れたところの湧水から ポンプアップで供給。但し、計画停電が行われて いるので、揚水ポンプが動かさず、給水に支障をさ している。水源の水圧は豊富。敷地内に手動が ンプ井戸を設けるのが適当。	● 敷地図、配置図 ● 店舗の移転計画図 ● 店舗移転に関するベンダーの合意書 ● 食卓市に関する同意書 ● 工事業者リスト ● 貸穀場敷地図 ● 台風ルビンの被害状況 0 ※ 貸穀場用地は市場本棟からやく 100m 離れた 位置。住居地域ではないので 100m でも良い とのこと。

(3) 計画地域及び周辺(12市町村)の流通機構

- 1) フィリピン国の公共市場は、特に計画地域である中央ヴィサヤ、北ミンダナオ地域のような地方都市部においては、市民の台所として、必須の施設であるとともに、食料品ほか様々な製品の流通基地としての役割も果たしており、地域経済基盤としての役割は大きい。

計画地域及び周辺の3県12町村(内、市は7)における、公共市場の設置状況は次の表3-1-4の通りである。

表3-1-4 計画地域及び周辺(12市町)における公共市場の設置状況

市町村	人口(人)	公共市場数	常設店舗数(露店数)
セブ市・ハエナ町	618,000	6	カルボンコンプレックスの場合 1579 (多数)
○ トレド市	123,500	2	-
マンダウエ市	173,700	4 (但し3つの小地域市場を含む)	市場主棟の場合 960 (1500)
○ カルカル町	70,000	1	96 (183)
○ ダナオ市	73,400	1	300 (600)
○ ラブラブ市	146,100	1	428 (158)
タグビララン市	569,200	3 (但し2つ小地域市場を含む)	924 (-)
○ オロキエタ市	52,500	1	416 (272)
ブラリイダル町	34,400	1	77 (-)
○ サバン・ダラガ町	21,500	1	90 (-)
ロベス・ハエナ町	22,600	1	49 (-)
アロラン町	20,800	1	58 (-)

出典: 事前調査報告書

(○印は計画対象市場)

上図から公共市場の設置状況を見ると、セブ市の場合、人口約60万に対し公共市場6であり、マンダウエ市の場合、人口173,700人に対し公共市場4(3つのsmall district marketを含む)である。トレド市の場合、人口123,500人に対し公共市場2であるが、配置をみると市の市街地の中心に一か所と、市街地より15km離れたACMDの銅鉱山・炭鉱の町に一か所ある。その他の市町における人口に対する公共市場についてみると、人口10万人に対して、少なくとも一か所設置されている。この観点からみると、例えばラブラブ市は、現在人口146,100で、最近工業・商業化が著しく、人口も急増している市であるが、既存の公共市場は一か所しかなく、新公共市場設置の必要性は高いと判断される。

- 2) 計画地域及び周辺の12市町から、いくつかの例を挙げて、市町全体の流通機構と公共市場の役割について考察する。



- ① トレド市 (人口 : 123,500人、公共市場2) の場合には、鮮魚は市の近海から漁獲している。また、市内の86ヘクタールの養殖池からも供給されている。鮮魚はポブラシオン市場の近くの漁港や、ポブラシオン市場から19km離れた市内のマタバ、マインギッド、バトのバランガイ (集落) から陸揚げされている。1990年の年間の漁獲量の実績は、720トンである。他の鮮魚の供給源はバランバン町 (隣町) からである。

食肉および卵や農作物は、トレド市に隣接するアロギンサン町、ピナマンガハン町から供給される。これらの食肉および農作物は、主に日曜日 (Market day) に取り扱われている。平常の日には、市内から供給される食肉が公共市場で取り扱われているが、農作物は他町村から供給されている。さらに野菜の恒常的供給は、サン・カルロ市港を通してカンラオン市からのルートがある。トレド市内には、商業生産をする牧畜業農家はなく、これら食肉類はバランバン町、ピナマンガハン町などの隣接の町村から供給されている。

衣類、日用雑貨類は、セブ市からトレド市に供給され、トレド市を通して、さらに近隣の町村へ流通している。穀物類は、市内および近隣町村から供給されているが、一部は港を通してはるかネグロス・オリエンタル県から供給される。トレド市は、セブ島の西海岸の市町村に対する多種多様の商品の卸売り小売りの流通基地となっている。

- ② ラブラブ市 (人口 : 146,100人、公共市場1) の場合には、農産物、鮮魚、食肉、穀物、衣類、靴類そして加工物が公共市場を通して流通されている。

養殖鮮魚は、マクタン島の周辺およびコルドバ町の養魚場から供給している。鮮魚はポブラシオン公共市場やブアヤ、カンジュラオ、ブタ、エンガノやマリバゴのバランガイ (集落) から陸揚げされている。1989年の漁獲量は、400トンで主に公共市場で取り扱っていた。他の鮮魚の供給地として、ダナオ市があげられる。

農産物および食肉 (卵、鳥肉を含む) はコロツバ町、タリサイ町、ミングラミア町そしてピナマンガハン町から供給され、これらは土・日曜日週末に取り扱われている。通常の日には、市内で生産されたものが、取り扱われている。ラブラブ市には商業生産をする畜産農家がなく、食肉はバラマン町から主に供給されている。

衣類、日用雑貨類は、セブ市から供給されており、ラブラブ市を通過して近隣の町村に流通している。穀類は、トレド市およびラブラブ市内から供給され、なかには港を通してネグロス・オリエンタル県から供給されている。

- ③ オロキエタ市 (人口 : 52,500人、公共市場1) の場合には、農産物、鮮魚、食肉、穀物、衣類、履物類、日用雑貨、加工品が公共市場で取り扱われている。鮮魚は、ボホール海、イリガン湾そしてミンダナオ海から供給されている。1980年の年間漁獲量は、3,025トンである。当市の47バランガイ(集落)のうち、10バランガイが、海に面しその主な住民は漁業を行っている。

食肉、野菜類は、当市内だけからでは十分供給できない。食肉については、カランバ町、プラリディル町、ロベス・ハエナ町から供給し、農産物については、セブ県から、またオサミス市、ディポログ市、トゥデラ町から供給している。ココナッツは、当市の主要農産物である。また、穀類は近隣の町村から供給されている。

加工製品、主に衣類、履物、その他日用雑貨類は、セブ市、オサミス市から供給され、当市を通過して、当県の他の町村に流通している。

- ④ セブ市 (人口 : 618,000人、公共市場6) の場合には、公共市場で取り扱われている鮮魚は、当市と近隣町村、および遠くネグロス・ミンダナオ県から供給されている。食肉については、主に近隣町村から、果物と野菜についても同様である。加工製品、日用雑貨類について、ルソン島および他の県から供給されているものもあり、特に手工芸品は、ボホール県とビコール県から供給されている。

以上のように、公共市場は対象地域及び周辺地域においては、他のフィリピンの地域と同様市内の流通基地だけでなく、近隣町村の商品、特に、加工製品である衣類、日用雑貨類の卸売り、小売の流通基地となっている。公共市場はフィリピンにおいては地域住民のための生活必需品の流通基地という機能だけでなく、地域の商業、経済活動の中核として重要な役割を担っている。

### 3-1-4 市場の構成要素及び規模の現状

#### 1. 公共市場

##### (1) フィリピン共和国における市場概観

フィリピン共和国において公共市場は、地域住民の生活に不可欠な穀物や野菜・果物、肉・魚類等食料品をはじめ、日用雑貨品を幅広く供給しているほか、近郊にある地方市場ほか地域内に点在するサリサリ・ストア ([Sarisari store] よろず小雑貨屋) に食料・雑貨品等を卸売りする機能を持つほか、地域の農民にとっても彼らの農産物を販売するために拾好の場所を提供するなど地域経済・流通発展のために重要な存在となっている。特に地方においては住民に直結する日常生活物資の7割が公共市場を通して流通している。従って全国にある公共市場の売上げ高は膨大なもので、家計支出費目別構成: 1961~88年に基づいて個人の年間支出の半分が公共市場での買物に当てられると仮定すると、1990年には国民総生産高の約1/3に当たる商品が公共市場を通して流通したことになる(資料 A-18、29 参照)。このことから公共市場の活動はフィリピン国の経済および国民の生活にとっていかに重要なものか理解することができる。

公共市場の種類としては、都市・町等の一区画、またはそのなかの建物・施設内・周囲に店舗・露店・街頭商が並ぶ常設市場、町村等で一定の日、一定の時間帯に売買が行われる定期市(場)、取引品目が特定・特化した市(家畜、植木等、寺社の門前市、縁日市)などがある。フィリピンの公共市場は最初の例そのものであるが、いずれも生活必需品を地域の人々に供給するという経済的機能を果たしていることに変わりはない。ここでは一物一価の法則が必ずしも貫徹しない途上国の経済にとって欠かせない施設であり、加えて大勢の人が集まるゆえの社交機能等、ある面では永年の取引経験により成熟したバザー経済がそこで成立している。

##### (2) 公共市場の機能

公共市場の機能はひとことで表現して、地域の人々に生活必需品を供給するという経済的働きであるが、現在もっている公共市場の機能・形態が存続している社会・経済的要因は以下の通りである。

- 1) 売手にとっては、小さな元手で多くの顧客と接することができ、かつ廉価多売ができるメリットがある。
- 2) 買手にとっては、より多くの商品選択が可能で、かつ店舗間の競合によって安く買えるという魅力と安心感がある。
- 3) 小売は当然ながら卸売を通じて地域に対する生活物資の流通を促進する。

- 4) 新鮮で安全な肉・肉類を随時必要量のみ購買することができる。このことは冷蔵庫など普及していない地域での食生活に重要である。
- 5) 近郷の農家に生産品を捌く場所を提供すると共に、彼等の生活物資や農機具などを購入することができる。
- 6) 大勢の人々が集まるが故に社交機能があり、地域社会の中心的存在となっている。

このような要因は、商業の機能が成熟していない開発途上国のなかでは、現在の公共市場の形態が自然発生的に成立して、存続しているものと考えられる。

### (3) 店舗の種類

この報告書で用いる「市場(いちば)」という用語は、一般に「国内市場(しじょう)」とか「国際市場(しじょう)」等、一定の価格体系、制度を備えた広域的、近代的な商品の販路、またはそれらを支える諸制度・活動に用いられているものを指すものではない。ここで言う「市場(いちば)」は国内のある地域において、一定の場所に人々が集まり、物資の売買を行う場所、あるいは施設を指すものであり、こうした市場をフィリピンではパレンケ (Palengke) と呼ばれる。

(注) その他地方によってメルカード (Merkado)、パミリハン (Pamilihan)、バラカハン (Barakahan) と呼ばれることもある。

これらの市場では地域住民の生活に必要な生鮮食料(肉・魚・野菜・果物)、米、麦、大豆等の穀類、乾魚類、衣料、はきものほか、香料、ソース類、缶詰、おかし類、麺・パン類等の加工食品および食器、金物、医療品、農具、ペンキ、装身具、文房具など日常雑貨が一般的な取引の対象になっている。特殊なもので地方の工芸品(カゴ・ほうき・刃物等)、理髪屋、質屋、宝くじ屋がある。また、いずれの市場にも軽食屋 (Carinderia) とかコーラなど飲料水を販売する店舗があり、一般消費者をはじめ早朝より夜晩くまで営業する業者によって利用されている。

### (4) 店舗の形態

店舗の種類はその形態により次のものがある。

#### 常設店舗 (Regular stall)

市場建物のなかに常設して配置された数多くの店舗には、販売される商品が種類別に整然と並べられている。借用人は商品別に定められた広さと場所によって、定められた使用料を市当局に対し月払いにて納めている。肉類や鮮魚類など水を使用する店舗はタイル貼、コンクリートなど耐水構造となっている。

#### 移動店舗 (Makeshift stall)

木板を組み合わせテントを張ることにより簡単な店舗を作り乾魚や衣料、はきもの等の販売に多く利用している。この店の所有者は月別また契約によっては日別に場所の使用料金を市当局に納めている。この店舗は移動可能な構造であり、彼等は先着順によって市場建物周辺の場所に商売のために都合のよい場所を確保しているが、市場によっては建物のなかでも半永久的に店舗を構築しているものも見受けられる。

#### 露天商 / 街頭商 (Ambulant, Hawker)

新鮮野菜、植木、花木などを簡単な敷物の上または直接路上に商品を並べて売るので、日曜などのマーケット・デーに数多くの街頭商が現れ、市場の近くの街道を埋めつくしている。

#### (5) 公共市場の開店時間

一般に公共市場は年中無休で早朝より開店しており、公共市場の労働者は働き者の代名詞となっている。とくに肉類の売場には午前9時頃より客が現れるために、それまでに食肉を陳列台に並べなければならず、屠殺場では、午前4時頃には既に作業を開始している。魚の卸屋も朝早く来て、各店舗に鮮魚を配置している。また、軽食類を扱う食堂は客だけでなく多くの市場で働く労働者によって利用されているため、他の店舗に比較して朝は早くから(7時頃より)夜は遅く(9時頃まで)まで営業している。例えばラブラブのような大規模都市型市場の軽食堂のように、一般の利用客も多く24時間営業をしている特殊なケースもあるが、一般の市場の店舗は、午前8時頃より午後7時頃まで営業している。公共市場が混雑する時間は、午前10時~11時頃が魚や肉のように新鮮度が大切なものの購買客が多く訪れ、夕方4時~6時頃夕食のために主として近くに居住する人々が訪れる。

## 2. 店舗の概要

各種店舗の概要は下記の通りである。

### (1) 肉類の店舗

平均的店舗の面積 :  $1.5 \times 2(m) = 3(m^2)$

平均的売上高 : 4,000ペソ/日

平均的店舗料金 : 100ペソ/月

肉類の流通 : 屠殺場は一般に公共市場の近くに設けられている。仲売人によって競売などで購入された家畜は屠殺場で処理され、小売店舗に卸売される。屠殺される家畜は豚・牛・羊・水牛があり、豚1頭で約50kg、牛1頭で約150kgの肉が競売に付される。

特徴 :  
● 店舗主が早朝屠殺場にて仕入れた肉は大部分午前中に販売されてしまう。  
● 屠殺場で処理された豚や肉類が商品の中心であり、鶏・アヒル等は一般家庭で処理される。市場ではこの他自家製のソーセージ、コンビーフが売られている。

### (2) 魚類の店舗

平均的店舗の面積 :  $1.5 \times 2(m) = 3(m^2)$

平均的売上高 : 1,500~2,000ペソ/日

平均的店舗料金 : 100ペソ/月

肉類の流通 : 近くの水揚場(港)より卸業者が運搬してくる。対象の魚は公共市場のセリ場(Bagsakan)において競売される。この競買では各種の魚が種類別に収納された箱を単位として取引されている。

特徴 :  
● 早朝仕入れた魚は昼までにほとんど売られるが、もし残った場合は更に氷を加えて夕方までに完売する。店によっては氷箱をもっているものもある。  
● 値段は種類別に15ペソ~80ペソ/kgと値幅が大きい。魚の販売はキロ単位、魚個数、刺身等さまざまな形で販売されている。

- 肉や魚のように変質し易い商品については店舗人が経験的に当日夕方までに売る量のみを仕入れする。万一残余ができた場合、氷箱に詰めて翌日まで保存するか、または乾魚として加工する。

### (3) 穀物類の店舗

平均的店舗の面積 :  $2.0 \times 3.5(m) = 7(m^2)$

平均的売上高 : 5,000ペソ/日

平均的店舗料金 : 250ペソ/月

米の流通 : 米はNFA (National Food Authority) によって認可された小売業者によって販売されている。公共市場の穀物商も鑑札を持ち営業を行っている。米の流通業者(精米所を営んでいる卸業者)の手によって市場に持ち込まれる。米の価格は品質によって8~12ペソ/kg。

- 特徴 :
- 公共市場では米の全流通量の約1/3量が扱われ、他は町の米穀商、サリサリ・ストア(よろず小雑貨屋)で販売されているといわれている。
  - 米の他、トウモロコシ粉 (Corn Grits)、大豆等が穀物の店舗で扱われている。
  - この種の店舗は売上高は大きいですが、所謂、廉価多売の商品であり店舗の利益は小さい。

### (4) 野菜果物の店舗

平均的店舗の面積 :  $2.5 \times 2(m) = 5(m^2)$

平均的売上高 : 1,500ペソ/日

平均的店舗料金 : 200ペソ/月

野菜の流通 : 結球白菜、人参、玉ねぎ、馬鈴薯等高級野菜は冷涼な山地の農民によって栽培され、主としてマーケット・デーなどに販売される。

- 特徴 :
- 農民が彼等の生産物を街頭/露店において直接販売している例が多い。また、サリサリ品(よろず小雑貨)を扱う店舗の一部を利用して販売されていることもある。フィリピンでは各種の野菜を少量ずつ混合してビニールの袋にいれ販

売されることが多々あるが、冷蔵器具のないところでの販売の知恵である。

(5) 乾魚の店舗

平均的店舗の面積 :  $2.5 \times 4(m) = 10(m^2)$

平均的売上高 : 2,500ペソ/日

平均的店舗料金 : 300ペソ/月

乾魚の流通 : 魚の嗜好性が高く、且つ冷蔵器具が普及していないフィリピンでは乾魚の需要が高く、とくに山地の人々にとって貴重な動物蛋白源となっている。

特徴 :

- 多くの種類の乾魚があり、これを扱う店舗はその店舗面積が他に比較して大きい。
- 最近では魚の缶詰が大量に出回り、乾魚の消費量は減っていると言われるが、それでもマーケット・デーには多数の乾魚が並んでいる。

(6) 衣料・はきものの店舗

平均的店舗の面積 :  $2 \times 4(m) = 8(m^2)$

平均的売上高 : 2,500ペソ/日

平均的店舗料金 : 250ペソ/月

衣料・はきものの流通: 多種・多様な生地反物、シャツ、Tシャツ、ズボン、下着等のアパレル類及び靴、サンダル類がマニラ、セブ、ダバオ等主要都市より仕入れられる。

特徴 :

- 小売商ほか、地方行商人への卸業も行う。
- この種の店舗は売上げが一定せず、経営が難しい。
- 住民の所得向上によって年々売上げは増大している。

(7) サリサリ商品の店舗

平均的店舗の面積 :  $2.5 \times 2(m) = 5(m^2)$

平均的売上高 : 1,500ペソ/日

平均的店舗料金 : 250ペソ/月



サリサリ品の流通 : マニラ等の大都市および近くの中小都市より供給される。地域内のサリサリ・ストアと競合の形となっているが、品物の豊富さと安さで顧客を定着させている。また、地域のサリサリ・ストアに対し卸売も行っている。

特 徴 :

- 村や町にあるサリサリ・ストアはカケ売りをを行うが、公共市場ではカケ売りは殆ど行っていない。
- サリサリ商品店舗での取扱商品は多いが、価格が低廉なのが大部分を占めるので、1日の売上げ高は多くない。

#### (8) 軽食堂の店舗

平均的店舗の面積 :  $3 \times 5(m) = 15(m^2)$

平均的売上高 : 2,000ペソ

平均的店舗料金 : 480ペソ

店舗(食堂)の内容 : 軽食・惣菜・菓子・軽飲料を販売するもので、対象の顧客は、公共市場に来る一般消費者および他の店舗の従業員である。店舗によってはヤシ酒の蒸留酒など、はかり売りしているところもある。

特 徴 :

- 顧客1人当たりの売上高が10~30ペソ程度で1日当たりの顧客数が30~70人と売上高は決して大きいとは言えない。
- 店舗面積が他の業種に比して大きい。
- 軽食堂では市場で働く人々に利用されることから、朝早くから夕方遅くまで開店時間が長い。

(9) その他の店舗

① 薬

風邪薬・胃腸薬・キズ薬等ごく一般的な薬を販売している。店主は県当局の鑑札を持ち、資格をもった薬剤師が顧客に接している。

② 菓子

自家製の菓子・パンは清涼飲料、飲料水などと一緒に販売している。

③ 文房具

ノート類、鉛筆・ボールペン等筆記用具など学童用具、便箋・封筒等家庭文房具

④ 食器・ガラス器具

鍋、小型かまど、各種皿、フォーク類に加えて洗面器・バケツおよび日常ガラス器具、装飾品、工芸品など

⑤ 金物

釘、針金、ハサミ、ペンチ等金物類に加えて一般家庭で使用するペンキ、亜鉛板など

⑥ 燃料

すみ・たきぎ

⑦ 理髪

男性、女性それぞれの理髪屋、マニキュア専門店など、とくに都会の大型マーケットに散見される。

⑧ 農具

鎌、鋏、鋤など農具類

⑨ その他特殊店舗

● 蒸留酒屋

やし酒など地酒をはかり売り(計量コップ)をするもの

● 宝くじ屋

公共宝くじの扱い店

● 質屋

時計、指輪などを抵当に金融を行う。

### 3. 公共市場とサリサリ・ストア及びスーパーマーケット

#### (1) サリサリ・ストア

街なかや村落などのごく小さなコミュニティを対象に開業している店舗面積が1~2坪の小さな「よろず小雑貨屋」である。ここでは日常の生活に必要な物資を販売しているが、とくに支払い能力が乏しい消費者が多い地域にとって、この商業機能は重要な役割をもっている。

サリサリ・ストアにおける販売上の特徴は、地域の特定コミュニティに対し、食糧、雑貨など生活必需品を小額小単位で供給していることである。たとえば、タバコなどは1本ずつ分けて販売するなど「バラ売り」(Tingi、ティンギ)および白米、砂糖、魚醤、やし酒など「量り売り」(Takal、タカル)であり、これらの商習慣の効用は最小限の出費によって当座必要なものを購入できることである。顧客のほとんどが低額所得者であることから、商品の「カケ売り」もごく普通に見られる。

#### (2) スーパーマーケット

近年、フィリピンの都市部においてはアメリカ式店舗と同様の運営を行うスーパーマーケットの出現が目立っている。ここでは全館冷房の建物の中央部にエスカレーターが設けられ、喧騒な音楽と色彩あざやかなポスター類は消費者の購買欲をかき立てるといふもので、その商品は高所得者層・若年層を対象にしている。

#### (3) サリサリ・ストア、公共市場とスーパーマーケット

サリサリ・ストアでは生活物資の小額小単位売買が、公共市場ではバザー機能のある売買が、またスーパーマーケットでは高級指向の売買がそれぞれの特徴となっているが、一般的にそれぞれの店舗において販売している商品イメージは下記の通りである。

サリサリ・ストア : パン・麺類  
調味料、魚醤、砂糖  
タバコ、飴  
マッチ、ローソク、石鹸

公 共 市 場 : 生鮮魚、精選肉  
各種の白米、トウモロコシ粉、各種野菜・果物類  
香辛料、食用油、ソース類  
生地・反物、一般衣料

スーパーマーケット : 電気製品  
冷凍食品、高級野菜、生ミルク

高級衣料・靴類、カバン類

装身具・スポーツ用品、化粧品

冷蔵庫を持っている中産階級の家庭の場合、日常の生活必需品のほとんど、すなわち白米、野菜、果物、生鮮魚・肉を求めるために週1~2回の割合で公共市場に行き、いっぽう電気器具、アパレル類、化粧品などはスーパーマーケットにおいて随時求め、時には味の素、魚醤、まっち、ローソクなど近所のサリサリ・ストアに求めるなど、商品によってこれらの店を使い分けている例もある。

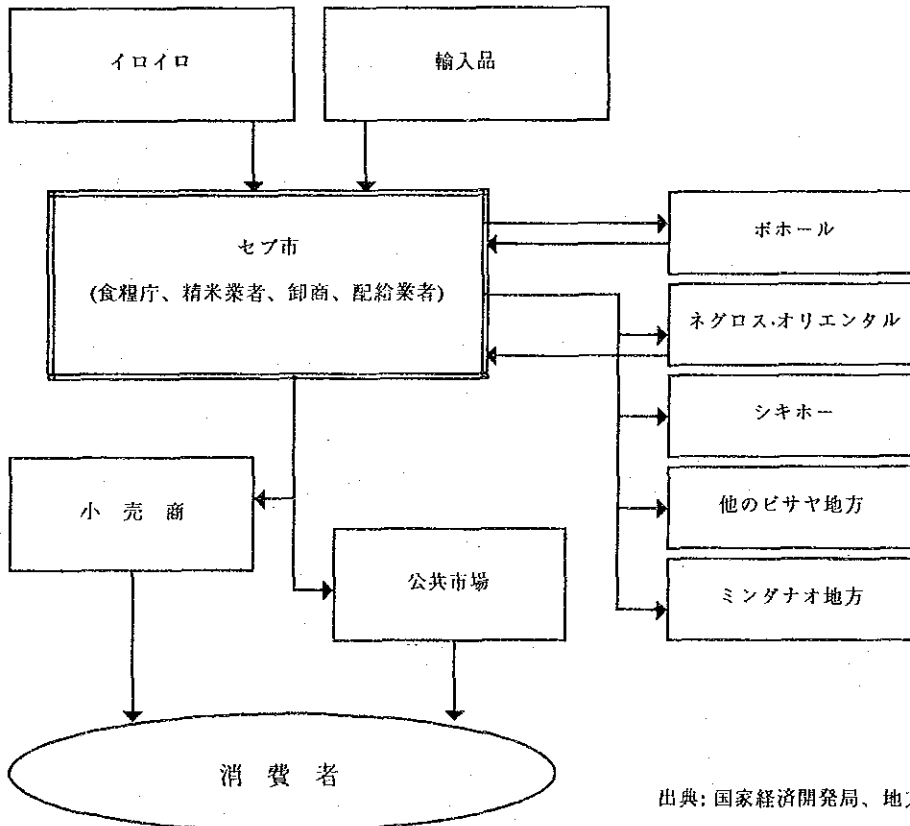
#### 4. 商品の流通フロー

##### (1) 穀物の流通

セブ県における穀物(白米、とうもろこし)の生産量は島民の消費量に達しないので、近くの過剰県より移入されるか、また外国よりの輸入によってこれらを補充している。米については主としてバナイ島のイロイロ市より、とうもろこしについてはミンダナオ島のカガヤンデオロ、ダバオ市より移入している。また、製パン・製麺用の小麦も全量がアメリカ・オーストラリアより地方の製粉業者が持っている施設に直接輸入されたのち、製粉され販売される。

主食である米の販売は、外米・内地米を問わず食糧庁(NFA: National Food Authority)の鑑札を持った穀物販売業者のみが行うことができる。卸商は、経済力のある精米業者であり、生産地において粉の集荷を自ら行い、貯蔵・精米をしたのち、消費地に白米を供給している。セブ市はこのような流通の中心地として栄えてきた歴史的背景にあることで有名である。セブ市を中心とする米の流通図は図3-1-22の通りである。公共市場における米の供給量は全体消費量の1/3と考える。他は公共市場外の販売店(サリサリ・ストア、専門店)また農家が自給しているものである。

図3-1-22 セブ県における米の流通図

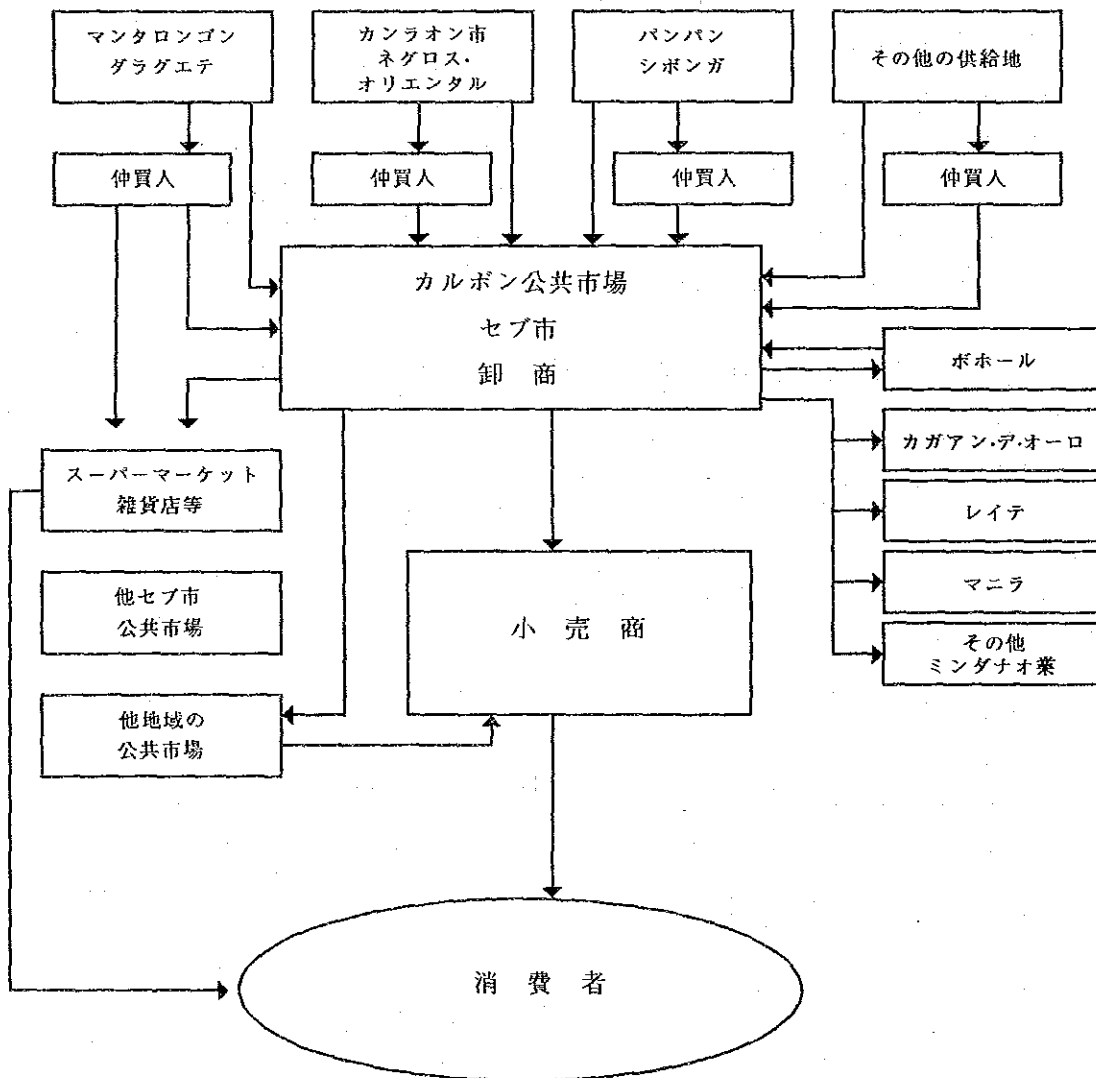


出典: 国家経済開発局、地方事務所

(2) 野菜(果物)の流通

セブ島内・島外で生産される各種の野菜(果物)は仲買人の手により集荷され、各々の公共市場で卸売される。このほか、山地に住む農民が高級野菜を直接公共市場に持参し、露店で販売する。一般に人参、白菜、キャベツ等、冷涼な山地で生産する高級野菜は高価であるため、露店の安価な野菜は地域の人々に人気がある。野菜(果物)の流通は図3-1-23の通りであう。

図3-1-23 セブ県における野菜(果物)の流通図



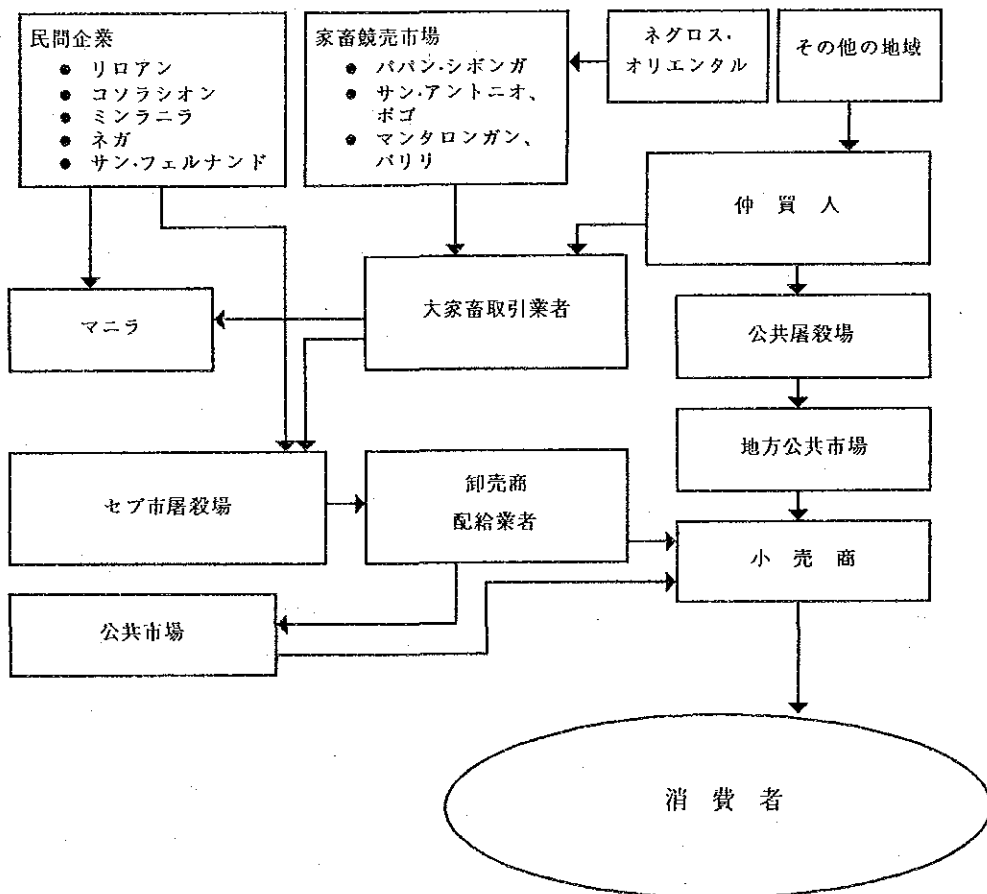
出典: 国家経済開発局、地方事務所

### (3) 肉類の流通

セブ島内または島外の農家または牧場で飼育された家畜は家畜取引所に集荷され、仲買人によって競売される。仲買人はセリ落とした家畜を市が経営する屠殺場に持ち込み処理を依頼する。食肉として売られる部分は平均して牛1頭約150kg、豚1頭約50kgであるが、優れた仲買人ほどセリ落とされた時の自分の推定重量と製品として売り出す肉の重量の差が小さい。これらの肉は解体後、公共市場の店舗人(Staller)の競売にかけられ、直ちに店頭に並べられることとなる。

一般的に食肉を扱う店舗が一日に販売する量は40~50kgである。また顧客1人当たり平均2~3kg(150~200ペソ)程度の肉を購入する。

図3-1-24 セブ県における肉類の流通図



出典: 国家経済開発局

#### (4) 鮮魚の流通

鮮魚の供給は、ラブラブ市、ダナオ市、トレド市、オロキエタ市のように自ら漁港をもち、漁業を専業とする部落があるところでは、海が荒れない限り豊富な漁獲量を確保することが出来る。他の市場も比較的海に近く供給上の問題はそれほどない。下記に各計画地における鮮魚の供給港を示す。

ラブラブ市場 : マクタンの漁業部落  
パシル  
ダナオ

カルカル市場 : アロギイサン  
アルガオ  
バリリ  
ヂユマヌアグ

ダナオ市場 : ダナオの漁業部落

トレド市場 : パシル  
マタブオグ  
マインギット

オロキエタ市場 : オサミス市よりディボログ市までの種々漁港および漁業部落

サバン・ダラガ市場 : 同上

鮮魚は水揚げされた後、直ちに(早朝の場合が多い)市場の卸売場(Bagsakan)で各店舗に箱単位で競売される。

#### (5) 衣料・雑貨の流通

生地・反物・アパレル類の衣料、カバン・ハンドバッグ類、サンダル・靴類、装身具・化粧品類及び缶詰、香辛料、食用油、砂糖等の雑貨はほとんどマニラやセブ、ダバオ等の大都市より入荷している。これらの卸商の多くはセブやダバオに本拠を持ち、全国的な供給ネットワークを持って活発に活動している。船は島の多いフィリピンでは好適な輸送手段である。

#### (6) 軽食堂

公共市場における軽食堂は、店舗(食堂)によって軽食、惣菜、菓子スナック、清涼飲料水、やし酒(地元蒸留酒)等各種のものを販売している。一つの食堂に6~12人程度の席が設けられることから、他の店舗に比較して広い面積を占めている。顧客の多くは市場の店舗員であることから、いずれの食堂も他の店より遅くまで営業しており、ラブラブ市場などほとんど24時間営業しているところもある。



## 5. 消費者の動向

公共市場に来る消費者の購買動向は以下の通りである。

### (1) 所得階層

NEDAの地方事務所資料や統計局による家計調査報告書、1988 (Family Income & Expenditures Survey Report, 1988)及び現地での聴取り調査の結果によれば(A-18、29参照)、調査の対象となった下記の市町村における住民の1家族の平均的消費額は表3-1-5の通りである。このうち、調査対象地域においては教育費、医療費、交通費、住宅関連費用などを除いた約75%に相当するものが公共市場で消費されるので、各地域の1人当たりの年間及び日当たりの公共市場での消費額は表3-1-5のようになる。

表3-1-5 購買者の消費額

単位：ペソ

	平均家族消費額	公共市場にて購買する1家族当りの消費額	
	(年間)	(年間)	(1日当り)
ラブラブ	35,000	26,250	72
カルカル	19,250	14,440	40
ダナオ	26,000	19,500	53
トレド (DAS)	24,000	18,000	49
オロキエタ	29,000	21,750	60
サパング・ダラガ	35,000	18,750	51

出所: NEDA地域事務所  
Family Income & Expenditures Survey Report, 1988

### (2) 商品分類別消費動向

一般消費者が公共市場において、いかなる商品をいかほど消費しているかを知るため、家計調査報告書、1988 (Family Income & Expenditures Survey Report, 1988)で詳しく調査された資料を根拠として、各商品分類別に、次の表3-1-6のように支出を行っていることが分かった。なお、各商品分類別の価格は調査団によって実地聴取され、フィリピンの調査資料と合わせて平均値が求められたものである。

表3-1-6 商品分類別1人当り及び1家族当りの消費額

地域 商品分類	ラブラブ	カルカル	ダナオ	トレド (DAS)	オロキエタ	サバングラガ
肉 類	1.00 P	0.40 P	0.63 P	0.55 P	0.63 P	0.52 P
魚 類	2.14	1.39	1.99	1.74	2.31	1.90
穀 類	3.58	2.88	3.26	2.84	4.04	3.32
野菜・果物類	0.58	0.43	0.53	0.46	0.63	0.52
衣料・履物類	1.40	0.71	1.14	1.11	1.52	1.25
サリサリ品類	2.49	1.07	1.90	1.92	1.88	1.55
軽食堂	1.11	0.19	0.51	0.25	0.17	0.14
その他	0.86	0.43	0.57	0.29	0.31	0.25
1人当り消費額	13.16	7.50	10.53	9.16	11.49	9.45
1家族当り消費額	71.85	39.53	53.39	49.28	59.63	51.41

資料： Family Income & Expenditures Survey Report, 1988

(3) 買物頻度及び市場利用者の割合

消費者すなわち市場顧客の買物頻度(一定の期間に何回市場に来るのか)については、公共市場を中心にその経済機能が及ぼす地域を下記の要領によって分類した。

1) 市場中心地域

1km以内に居住し毎日公共市場に来るグループ。主として徒歩。

2) 市街地域

市街地に居住しているが、遠いため週3回の割合で公共市場に来るグループ。主として三輪車を利用。

3) 郊外地域

郊外に住み、週1回の割合で公共市場に来るグループ。主としてジブニー、三輪車を利用。

以上 1)、2)、3) の地域の人口を調べ、グループ別の市場利用者の1日当たりの割合を求めた。(表3-1-7)

表3-1-7 グループ別市場利用割合

地域 グループ分け	ラブラブ	カルカル	ダナオ	トレド (DAS)	オロキエタ	サバングラガ
1) 毎日市場にくるグループ	NA	50 %	20 %	40 %	35 %	15 %
2) 週3回市場にくるグループ	NA	25	40	35	30	10
3) 週1回市場にくるグループ	NA	25	40	25	35	75

以上の数値によると、トレド (DAS) とサパン・ダラガでは対照的である。これはトレド (DAS) の消費者の大部分が公共市場のある鉾山町に集中して住んでいるのに対し、サパン・ダラガでは多くの住民が公共市場から離れたココヤシ園に散在して居住していることにより相違が出て来ているものと考えられる。

#### (4) 乗り物の利用

消費者が市場にくる場合、徒歩あるいは自転車、三輪車、ジブニー、その他(バス、フェリー等の乗り物)を利用しているが、商品分類別消費者の乗り物利用率は現地調査の結果、表3-1-8のとおりである。

表3-1-8 消費者の乗り物利用率

	ラブラブ	カルカル	ダナオ	トレド (DAS)	オロキエタ	サパンダラガ
肉 類	15%	NA	20%	45%	26%	33%
魚 類	-	NA	5	-	5	-
穀 類	68	NA	40	35	54	30
軽食堂	13	NA	25	10	12	30
その他	4	NA	10(Ferry)	10	3	7(BUS)

#### (5) 買物時間

購買者が市場に来る時間帯については表3-1-9に示す調査結果を得た。

表3-1-9 購買者の市場利用時間帯

	ラブラブ	カルカル	ダナオ	トレド (DAS)	オロキエタ	サパンダラガ
午 前	54%	NA	50%	NA	47%	20%
午 後	10	NA	20	NA	21	50
とくに定っていない	36	NA	30	NA	32	30

午前中に利用者が集中しているのは生鮮物の肉・魚などを午前中に購入する人が多いためである。また、サパン・ダラガにおいては午後により多くの購買者を数えているが、これは肉と魚の卸市場がこの市場から遠く離れているためと考えられる



## 第 4 章 計 画 の 内 容

4-1	目 的 .....	99
4-2	要請内容の検討 .....	99
4-2-1	計画の妥当性・必要性の検討 .....	99
4-2-2	要請施設の妥当性の検討 .....	100
	1. 各公共市場の規模の検討 .....	100
	2. 店舗数の検討 .....	104
4-2-3	計画の構成要素・規模の検討 .....	107
	1. 要請公共市場の機能及び規模の考え方 .....	107
	2. 要請公共市場の構成要素・規模の検討 .....	107
4-2-4	要請施設・機材の内容検討 .....	113
4-2-5	本計画の実施機関 .....	113
4-2-6	公共市場の管理運営体制 .....	115
4-2-7	本計画実施範囲の検討 .....	118
4-2-8	類似計画及び国際機関等の援助計画との関係・ 重複等の検討 .....	119
4-2-9	技術協力の必要性 .....	119
4-2-10	協力実施の基本方針 .....	119
4-3	計画の概要 .....	120
4-3-1	実施機関及び運営体制 .....	120
4-3-2	事業計画 .....	120
4-3-3	維持・管理計画 .....	121



## 第4章 計画の内容

### 4-1 目的

フィリピン共和国では、近年の悪化する政治、経済状況に加え、その地理的特性から、台風・風水害、旱魃、地震等の被災が相継ぎ、生活・社会基盤に大きな影響を及ぼしている。その中で1990年11月来襲した大型台風“ルピン (RUPING)”は特に同国中央部のビサヤ、北ミンダナオ地方に甚大な被害をもたらした。この大型台風によって、地域住民の日常生活の基盤となっている公共市場も各所で大被害を被り、乏しい財政の中から被災地区の市町村では、その復旧に大きな負担を強いられている。公共市場は地域住民の生活に不可欠な施設であるため、各自治体の努力、中央政府の協力によって、ある程度の応急修理はなされているものの十分な修復は困難な状況にある。また、大きな被害を受けた公共市場は建物の老朽化も著しく、加えて、無秩序な店舗の増加による混雑等から安全性、衛生状況の悪化も著しい。

本計画は、これらの被災地域の内、セブ島及びミンダナオ島、ミサミス・オキシデンタル県の台風被災市場の機能回復を目的として施設の改修及び新築を行うものである。

### 4-2 要請内容の検討

#### 4-2-1 計画の妥当性・必要性の検討

地方自治省は「公共市場改善のガイドライン」(MODULAR APPROACH) 発刊に当たり次のような言葉を寄せている。

“公共市場は、地方自治体によって運用されている経済事業の一つであり、地域全体の開発において非常に大きな影響がある。これは、市町村の収入に大きく寄与するものであり、市民の健康や栄養摂取に影響を及ぼし、また商人や市場に従事する労働者の生計を助け雇用の機会を与え、さらに地域の経済活動の全般的促進、向上につながる。

従って、地方の経済事業や公共設備投資に目をそむけ続けることは地方の全体的開発を遅らせるだけでなく、国家経済の向上も妨げることになる。

このような公共市場の現状は、地方自治体へ積極的に財政及び技術的支援を行うことによって、公共市場改善のために強力に地方自治体に介入するという中央政府の計画を喚起した。この計画は同国の経済の活性化及び持続的成長を助け、また同時に、計画推進のために行動を起こす機会を政府の役人に与え、行政の努力を促すことにおいて二重の効果がある。

このような観点から、フィリピン政府は前述の「公共市場改善のガイドライン」を策定し、地方自治省及び地方自治体を軸に、全国的規模で公共市場の改善事業を推進している。当事業は、このフィリピン政府の政策に協力及び支援するものであり、地域住民はもとより中広く同国々民に寄与することは疑いないことから、極めて裨益効果の大きい事業である。

なお、本計画では、個々の市場の直面する特殊な問題及び適正規模の検討をするだけでなく、これと併行して広く“フィリピンにおける公共市場”の在り方を模索する観点から施設内容の検討をする必要があるため、本計画地域外の公共市場及び周辺地域の類似施設も比較検討の対象とする。

#### 4-2-2 要請施設の妥当性の検討

##### 1. 各公共市場の規模の検討

各公共市場の経済的規模を (1) 購買者数 (2) 各市場の売上げ高 (3) 各店舗の売り上げ高 (4) 各店舗ごとの購買者数 の各要因から算出し、要請市場規模の妥当性を確認する。

##### (1) 各公共市場の購買者数

各公共市場に来る購買者の数を現地調査に基づき以下のように算出する。(資料A-29参照)

- ① 地域内からの購買者 人口統計による。(A)
- ② 地域外からの購買者 地域外より来る購買者数の割合を現地調査によって設定した。(B・C)
- ③ 地域内の他店に行く購買者 地域内のサリサリ・ストアとか他の専門店に行く購買者を現地調査によって設定した。(D・E)

表4-2-1 各公共市場の購買者数

	地域内の人口 (1990)	地域外からの購買者 推定率	地域外人口を含めた購買者人口	地域内にある外の店に行く購買者 推定率	当該公共市場に来る購買者数
	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
ラブラブ	146,197	1.3	190,052	0.20	152,042
カルカル	70,841	1.0	70,841	0.40	42,505
ダナオ	73,358	2.0	146,716	0.30	102,701
トレド *1 (DAS)	87,910	1.0	87,910	0.25	65,932
オロキエタ	52,200	1.5	78,300	0.30	54,810
サバン・グラガ	17,945	1.0	17,945	0.25	13,459

(A): 統計局資料

(B): 現地調査によって推定

(D): 現地調査によって推定

\*1: トレドについては、DAS地域のみ



(2) 各公共市場の平均売上高(需要額)

各公共市場の1日当たりの売上げ高を以下のように計算し、需要額から要請市場規模の妥当性を確認する。(表4-2-2)(資料A-29参照)

- ① 各地域の家族数 各地域の人口をその地域の平均家族構成人数で除して家族数を求めた。(F)
- ② 家計支出 各地域の家計支出(年間)を“Family Income & Expenditures Survey Report 1988”より求めた。(G)
- ③ 公共市場での消費額 家計支出より、教育費、交通費、医療品費、その他公共市場と関係のない支出を家計支出全体の25%に相当するものとして減らし、この地域の購買者が公共市場で1年間に購入する全体額を推定した。(H)  
また、(H)額を365日で除することによって1日の平均消費額を計算した。(I)
- ④ 公共市場の経済規模 1家族が公共市場で消費する額と、この公共市場で購買する家族数を乗ずることによって、それぞれの公共市場の年間取扱額と1日当たりの取扱額を推定した。(J、K)

表4-2-2 各公共市場の購買者の支出額及び市場総需要額

	地域の家族数 (F)	年間家計支出 (ベソ) (G)	公共市場での支出額 (ベソ)		公共市場の経済規模 (1,000ベソ)	
			年間 (H)	1日当たり (I)	年間 (J)	1日当たり (K)
ラブラブ	27,832	35,000	26,250	72	730,590	2,002
カルカル	8,063	19,250	14,440	40	116,430	319
ダナオ	20,244	26,000	19,500	53	394,758	1,082
トレド (DAS)	12,255	24,000	18,000	49	220,590	604
オロキエタ	10,559	29,000	21,750	60	229,654	629
サバング・ガラガ	2,470	25,000	18,750	51	46,313	127

(F): 表4-2-1の全体購買者数を各地域の平均家族人数で除する。

(G): Family Income & Expenditures Survey Report 1988より

(H-I): 家計支出より25%相当分を公共市場以外での支出として計算

(J-K): (F) × (H)

### (3) 店舗ごとの売上げ高

各公共市場における店舗の平均売上げ高は1日当たりの売上げ高を既存の店舗数で除して、表4-2-3のように算出し、要請市場規模の妥当性を確認する。(資料A-29参照)

表4-2-3

	1日当たりの売上げ高 (ペソ)		既存の店舗数		店舗の1日当たりの売 上げ高平均値 (ペソ)	
	(L)	相対比率	(M)	相対比率	(N)	相対比率
	ラブラブ	2,002,000	0.420	729	0.327	2,746
カルカル	319,000	0.067	96	0.043	3,323	0.243
ダナオ	1,082,000	0.227	350	0.157	3,090	0.226
トレド *1 (DAS)	604,000	0.127	279	0.125	2,165	0.159
オロキエタ	629,000	0.132	688	0.308	914	0.067
サパン・ ドラガ	127,000	0.027	90	0.040	1,411	0.103
計	4,763,000	1	2,232	1	13,649	1

(L): 表4-2-2(K)より引用 (M): 1992年現在の店舗数 (N):(L)÷(M)

各市場共、購買者の経済条件、物価、店舗の取扱い品目、店舗の規模・環境等が同一であると仮定すれば、ほぼ相対比率は(L)=(M)となり、(N)は各店舗ほぼ同率となるはずである。ここで、特にオロキエタとサパングラガの1店舗当たりの平均売上高が小さいのは店舗数が人口に対して多い(1店舗の規模は小さいが、店舗の種類及び店舗数は必要)ため、購買者の店舗当たりの依存度が小さいことによる。これは都市部、農村部等の地域性が数値に表れたものであり、現段階では農村部の店舗の単位は都市部と比較して小さくて良いことを意味している。

### (4) 1日当たりの購買者数及び店舗ごとの購買者数

各公共市場に来る1日当たりの購買者数および各店舗の1日当たりの平均購買者数を表4-2-4のように算出した(資料A-29参照)。この結果、オロキエタとサパン・ドラガは、1店舗当たりの購買者数が少なく、前述(3)の結果と一致する。またトレド市のDAS市場は、これらの市場のうち最も新しく建設されたもので、最も国の規準(モデュラー・アプローチ)に近い施設である。またDAS市場は、上記(3)店舗ごとの売上高における表4-2-3で(L)÷(M) (N: 0.167)÷0.159で最も標準に近い数値を示しているためDAS市場の各店舗の規模は、他市場の店舗の比較規準になり得る。

表4-2-4 各公共市場と店舗の購買者数(1日当たり平均)

	家族数					購買者数					1日当たり平均 公共市場 購買者数	1日当たり平均 店舗ごと 購買者数
	中心地	市街	農村	その他	合計	中心地	市街	農村	その他	合計		
	(O)	(P)	(Q)	(R)	(S)	(T)	(U)	(V)	(W)	(X)		
ラブラブ	12,815	13,947	-	8,028	34,790	89,705	41,841	-	8,028	139,574	19,939	20
カルカル	2,243	4,205	6,990	-	13,438	15,701	12,615	6,990	-	32,306	4,615	31
ダナオ	1,528	6,726	6,206	13,438	27,898	10,696	20,178	6,206	13,438	50,518	9,964	20
トレード(DAS)	3,875	1,545	10,399	-	15,819	27,125	4,362	10,399	-	57,978	8,283	30
オロキエタ	1,036	6,082	2,938	5,028	15,084	7,252	18,264	2,938	5,028	33,404	6,448	11
サバン・ダラガ	428	1,164	1,701	-	3,293	2,996	3,492	1,701	-	8,189	1,170	11

(O・P・Q・R) : 家族数を人口センサスの統計より引用

(T) : 毎日市場に来ると推定

(U) : 週3回市場に来ると推定

(V・W) : 週1回市場に来ると推定

(X) : (T)+(U)+(V)+(W)

(Y) : (X)÷7日

(Z) : (Y)÷各公共市場の店舗数

(Z)の結果から、オロキエタ、サバン・ダラガ市場は店舗の規模が標準の約1/3、ラブラブ、ダナオ市場は約2/3であるため、改築に当たっては、店舗の数もさることながら、各店舗の規模の増強が市場改修の重要な要素となる。